茨城県教育財団文化財調査報告第147集

伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書5

前田村遺跡J・K区
(下　　巻)

平成11年3月

茨　　城　　県
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第147集

伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書5

前田村遺跡J・K区
（下　　巻）

平成11年3月

茨　　城　　県
財団法人　茨城県教育財団

目　　次

— 下　巻 —

第４節　Ｋ区の遺構と遺物 …… 1
1　縄文時代遺構と遺物 …… 1
(1)　竪穴住居跡 …… 1
(2)　土坑 …… 10
2　平安時代の遺構と遺物 …… 14
(1)　竪穴住居跡 …… 14
3　中・近世の遺構と遺物 …… 19
(1)　火葬土坑 …… 19
(2)　地下式壙 …… 20
(3)　土　坑 …… 21
4　時期不明の遺構 …… 24
(1)　道路状遺構 …… 24
(2)　溝 …… 24
(3)　その他の土坑 …… 26
5　遺構外出土遺物 …… 28
6　まとめ …… 34
第４章　前田村遺跡の変遷 …… 36
付章 …… 73
写真図版 …… 75

挿 図 目 次

— 下　巻 —

第300図　第574号住居跡実測図…… 2
第301図　第574号住居跡出土遺物実測図…… 2
第302図　第575号住居跡実測図…… 3
第303図　第575号住居跡出土遺物実測図…… 3
第304図　第576号住居跡実測図…… 4
第305図　第576号住居跡出土遺物実測図…… 5
第306図　第577号住居跡実測図…… 6
第307図　第577号住居跡出土遺物実測図…… 6
第308図　第578号住居跡実測図…… 7
第309図　第578号住居跡出土遺物実測図…… 8
第310図　第579号住居跡実測図…… 9
第311図　第579号住居跡出土遺物実測図…… 9
第312図　第580号住居跡(炉)実測図…… 10
第313図　第580号住居跡出土遺物実測図…… 10
第314図　第3474号土坑実測図 …… 11
第315図　第3474号土坑出土遺物実測図 …… 11
第316図　第3476号土坑実測図 …… 11
第317図　第3476号土坑出土遺物実測図 …… 11
第318図　第3478号土坑実測図 …… 12
第319図　第3478号土坑出土遺物実測図 …… 12

第320図　第3482号土坑実測図 …… 12
第321図　第3482号土坑出土遺物実測図 …… 13
第322図　第3488号土坑実測図 …… 13
第323図　第3488号土坑出土遺物実測図 …… 13
第324図　第572号住居跡実測図 …… 15
第325図　第572号住居跡出土遺物実測図(1) …… 16
第326図　第572号住居跡出土遺物実測図(2) …… 17
第327図　第573号住居跡実測図 …… 18
第328図　第573号住居跡出土遺物実測図 …… 18
第329図　第3485号土坑実測図 …… 19
第330図　第3490号土坑実測図 …… 19
第331図　第47号地下式壙実測図 …… 20
第332図　第47号地下式壙出土遺物実測図 …… 21
第333図　第3466号土坑実測図 …… 21
第334図　第3475号土坑実測図 …… 22
第335図　第3475号土坑出土遺物実測図 …… 22
第336図　第3484号土坑実測図 …… 23
第337図　第3484号土坑出土遺物実測図 …… 23
第338図　第２号道路状遺構土層断面図 …… 24
第339図　第195・196・197号溝土層断面図 …… 25
第340図　その他の土坑実測図 …… 27
第341図　遺構外出土遺物実測図(1) …… 29
第342図　遺構外出土遺物実測図(2) …… 30
第343図　遺構外出土遺物実測図(3) …… 31
第344図　前田村遺跡Ｋ区全体図 …… 33
第345図　Ⅰ縄文時代前期 …… 40
第346図　縄文時代前期の遺物 …… 41
第347図　Ⅱ縄文時代中期(1)阿玉台式期 …… 42
第348図　阿玉台式期の遺物 …… 43
第349図　(2)中峠式期 …… 44
第350図　中峠式期の遺物 …… 45
第351図　(3)加曽利ＥⅠ式期 …… 46
第352図　加曽利ＥⅠ式期の遺物 …… 47
第353図　(4)加曽利ＥⅡ式期 …… 48
第354図　加曽利ＥⅡ式期の遺物 …… 49
第355図　(5)加曽利ＥⅢ式期 …… 50
第356図　加曽利ＥⅢ式期の遺物 …… 51
第357図　(6)加曽利ＥⅣ式期 …… 52
第358図　加曽利ＥⅣ式期の遺物 …… 53
第359図　Ⅲ縄文時代後期(1)称名寺式期 …… 54
第360図　称名寺式期の遺物 …… 55
第361図　(2)堀之内式期 …… 56
第362図　堀之内式期の遺物 …… 57
第363図　(3)加曽利Ｂ式期 …… 58
第364図　加曽利Ｂ式期の遺物 …… 59
第365図　(4)安行１・２式期 …… 60
第366図　安行１・２式期の遺物 …… 61
第367図　Ⅳ縄文時代晩期　安行3a・3b式期 …… 62
第368図　安行3a・3b式期の遺物 …… 63
第369図　Ⅴ古墳時代前期 …… 64
第370図　古墳時代前期の遺物 …… 65
第371図　Ⅵ古墳時代後期 …… 66
第372図　古墳時代後期の遺物 …… 67
第373図　Ⅶ平安時代 …… 68
第374図　平安時代の遺物 …… 69
第375図　Ⅷ中世 …… 70
第376図　地下式壙出土遺物 …… 71

付　　図

前田村遺跡Ｊ区全体図

表　目　次

表1　前田村遺跡K区住居跡一覧表 …… 32
表2　前田村遺跡K区溝一覧表 …… 32
表3　前田村遺跡K区土坑一覧表 …… 32

写真図版目次

PL1〈カラー図版1〉　第5遺構群完掘（東から）
PL2〈カラー図版2〉　地下式壙・土坑，遺物出土状況・土層断面
PL3　前田村遺跡J区遠景（南東から）
PL4　第503号住居跡遺物出土状況・出土遺物(1)
PL5　第503号住居跡出土遺物(2)，第506号住居跡
PL6　第507・508号住居跡
第507・508号住居跡遺物出土状況
第507・508号住居跡出土遺物(1)
PL7　第507・508号住居跡出土遺物(2)
PL8　第536号住居跡・出土遺物
PL9　第536号住居跡出土遺物
PL10　第524号住居跡
第524・535号住居跡出土遺物
PL11　第550・553号住居跡出土遺物
PL12　第2986号土坑遺物出土状況
第2990号土坑土層断面
第2990・2991・2994・2995・2996・2997・2998号土坑
PL13　第3001・3131・3237・3248号土坑
第3131・3133・3135号土坑土層断面
第3133号土坑遺物出土状況
PL14　第3250・3269・3316・3323・3325号土坑
第3273・3389号土坑遺物出土状況
第3323号土坑土層断面
PL15　第2991・2992・2993・2997・2998号土坑出土遺物
PL16　第2986・2989・2990号土坑出土遺物
PL17　第3000号土坑出土遺物
PL18　第3001・3130・3133号土坑出土遺物
PL19　第3131・3135・3237・3248・3273号土坑出土遺物
PL20　第3250・3269・3323号土坑出土遺物
PL21　第3323・3325・3326号土坑出土遺物
PL22　第3326・3389号土坑出土遺物
PL23　第511号住居跡・出土遺物
PL24　第505号住居跡・竈土層断面・出土遺物(1)
PL25　第505号住居跡出土遺物(2)
第513号住居跡
PL26　第514号住居跡・遺物出土状況(1)・竈土層断面
PL27　第514号住居跡遺物出土状況(2)・出土遺物(1)
PL28　第514号住居跡出土遺物(2)
PL29　第526号住居跡・竈・出土遺物
PL30　第519号住居跡・出土遺物(1)
PL31　第519号住居跡出土遺物(2)
第521号住居跡
PL32　第520号住居跡・遺物出土状況・出土遺物(1)
PL33　第520号住居跡出土遺物(2)
PL34　第525号住居跡・竈・遺物出土状況
PL35　第525号住居跡出土遺物(1)
PL36　第525号住居跡出土遺物(2)
PL37　第537号住居跡・出土遺物
PL38　第527号住居跡・竈・出土遺物(1)
PL39　第527号住居跡出土遺物(2)
PL40　第531号住居跡遺物出土状況(1)
PL41　第531号住居跡遺物出土状況(2)・竈土層断面・出土遺物
PL42　第532・538・540号住居跡
第532・538・540号住居跡出土遺物
PL43　第539号住居跡・出土遺物

ＰＬ44　第545号住居跡・出土遺物(1)
ＰＬ45　第545号住居跡出土遺物(2)
第564号住居跡出土遺物
ＰＬ46　第544号住居跡・遺物出土状況・土層断面・出土遺物(1)
ＰＬ47　第544号住居跡出土遺物(2)
ＰＬ48　第546号住居跡・出土遺物
第547号住居跡出土遺物(1)
ＰＬ49　第547号住居跡・竈・出土遺物(2)
ＰＬ50　第548・549号住居跡遺物出土状況
第548・549号住居跡出土遺物
ＰＬ51　第551号住居跡・遺物出土状況・出土遺物
ＰＬ52　第552号住居跡・遺物出土状況・出土遺物
ＰＬ53　第555・560号住居跡出土遺物
ＰＬ54　第554号住居跡・出土遺物
ＰＬ55　第504号住居跡・土層断面・竈土層断面・出土遺物
ＰＬ56　第509号住居跡・竈土層断面・遺物出土状況・出土遺物
ＰＬ57　第510号住居跡遺物出土状況・土層断面・竈土層断面・出土遺物
ＰＬ58　第516号住居跡・竈土層断面・遺物出土状況
ＰＬ59　第516・517号住居跡出土遺物
第518号住居跡竈土層断面・出土遺物
ＰＬ60　第522・523号住居跡・土層断面・遺物出土状況・出土遺物
第534・563号住居跡出土遺物
ＰＬ61　第543号住居跡・竈・出土遺物
ＰＬ62　第561号住居跡・出土遺物
第562号住居跡遺物出土状況・出土遺物
ＰＬ63　第556号住居跡遺物出土状況・出土遺物
第559号住居跡・遺物出土状況・出土遺物
ＰＬ64　第４遺構群（北東から）
ＰＬ65　第32号地下式壙
第33・34号地下式壙
ＰＬ66　第35号地下式壙
第3008・3009・3025号土坑
ＰＬ67　第45・46・47号溝
第33・34号地下式壙土層断面
ＰＬ68　第４遺構群（北部）
第3008・3009・3010・3013・3023・3026・3027号土坑
第3003・3010・3026・3027号土坑土層断面
第32号地下式壙
ＰＬ69　第3014・3015・3016・3019・3024・3025・3028・3029 3037・3107号土坑
第33・34号地下式壙
第35号地下式壙土層断面
ＰＬ70　第3030・3031・3034・3038・3040・3041・3045・3046・3047号土坑
第3031・3045号土坑土層断面
ＰＬ71　第3056・3060・3061・3065・3066・3067・3070~3076号土坑
第3055号土坑土層断面
ＰＬ72　第3081・3082・3084・3090・3093・3094・3095号土坑
第3081・3089号土坑土層断面
第3084・3089号土坑遺物出土状況
ＰＬ73　第3096・3099・3100号土坑
第3096・3101・3104号土坑土層断面
第3101号土坑遺物出土状況
ＰＬ74　第3104・3159・3349号土坑
第3117号土坑土層断面
第34・35号井戸，第146号溝
ＰＬ75　第５遺構群（西部）
第3370～3375号土坑
ＰＬ76　第3152・3164～3170号土坑
第3171～3175号土坑
ＰＬ77　第22号方形竪穴状遺構
第45号地下式壙土層断面
第46号地下式壙
第3429・3450・3458号土坑
第3140号土坑土層断面
ＰＬ78　第3336・3337・3342・3344・3371号土坑
第3336・3337・3341・3375~3378号土坑土層断面
ＰＬ79　第3393・3458号土坑

第3381・3393・3400・3409・3410・3411・3412・3413
号土坑土層断面，第182号溝

PL80　第6遺構群
第15号方形竪穴状遺構・土層断面
第16号方形竪穴状遺構・土層断面

PL81　第21号方形竪穴状遺構
第39号地下式壙
第40・41号地下式壙・土層断面

PL82　第42・43号地下式壙
第3222・3249・3269・3253~3257・3259・3262・3263
号土坑

PL83　第3261・3264・3265・3267・3268・3276号土坑
第3264号土坑土層断面

PL84　第3272・3283・3285・3288～3290号土坑
第3278号土坑遺物出土状況
第3275・3285・3290号土坑土層断面

PL85　第3294～3296・3300号土坑
第3295・3296・3130・3132号土坑土層断面
第36号井戸，第38号地下式壙
第542号住居跡，第154号溝土層断面
第184号溝

PL86　第37号地下式壙・土層断面

PL87　第3003・3012・3014・3058a・3067・3084・3089a号
土坑
第32号地下式壙出土遺物

PL88　第36号地下式壙，第34・35号井戸
第147・154号溝出土遺物

PL89　第3089a・3093・3101号土坑
第33号地下式壙
第23号方形竪穴状遺構出土遺物

PL90　第3008・3221・3267・3390号土坑
第36号地下式壙出土遺物

PL91　遺構外出土遺物(1)

PL92　遺構外出土遺物(2)

PL93　遺構外出土遺物(3)

PL94　前田村遺跡K区全景（東から）
第574号住居跡

PL95　第575・576号住居跡

PL96　第577・578号住居跡

PL97　第579・580号住居跡

PL98　第3466・3476・3478・3484・3485・3490号土坑
第47号地下式壙
第3490号土坑土層断面

PL99　第572号住居跡・遺物出土状況・出土遺物(1)

PL100　第572号住居跡出土遺物(2)

PL101　第573号住居跡・遺物出土状況・出土遺物

PL102　第574～576・578号住居跡出土遺物

PL103　第576～580号住居跡出土遺物

PL104　第3474～3476・3478・3482・3484・3488号土坑
第47号地下式壙出土遺物

PL105　遺構外出土遺物(1)

PL106　遺構外出土遺物(2)

PL107　遺構外出土遺物(3)

第4節　K区の遺構と遺物

K区は，当遺跡の西部に位置し，東側にはJ区がある。K区は，西に向かい舌状に張り出す台地状に立地し，北側と南側には西側から谷津が入り込んでいる。

K区からは，竪穴住居跡9軒（縄文時代7軒，平安時代2軒），土坑23基，地下式壙1基，火葬土坑2基，溝4条，道路状遺構1条を検出した。

なお，遺構番号は，J区からの続きである。

1　縄文時代の遺構と遺物

(1)　竪穴住居跡

第574号住居跡（第300・301図）

位置　調査区南西部，H5d7区。

規模と平面形　北東壁と南西壁が撹乱を受け残存しないが，長軸5.06m，短軸〔4.52〕mの隅丸長方形と推測される。

長軸方向　N－38°－E

壁　壁高は6～11cmで，緩やかに立ち上がる。

床　平坦である。床面の南部に不定形の焼けた跡が1か所確認されている。明確な掘り込みが見られず，床が焼けていただけなので，一時的に火を焚いているが，一般的な炉とは考えにくい。

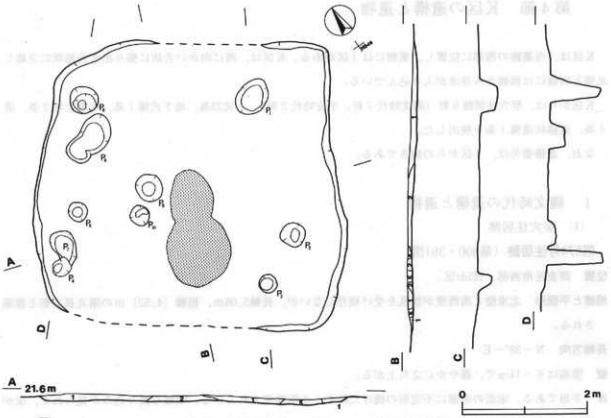
ピット　10か所（P_1～P_{10}）。P_1は長径65cm，短径45cmの楕円形で，深さ27cm，P_2～P_6は径29～48cmの円形で，深さ24～85cmである。形状や配置から主柱穴と考えられる。P_7・P_8は長径55～85cmの楕円形で，深さ18～27cmである。配置からそれぞれ補助柱穴と考えられる。P_9・P_{10}は径30～40cmの円形，深さ18～52cmで，性格は不明である。

覆土　2層からなる。自然堆積である。

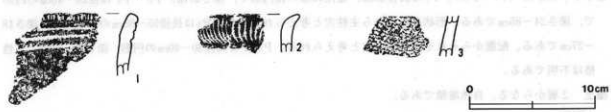
土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子中量
2　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子中量

遺物　縄文土器片少量，混入と思われる土師器片1点が出土している。第301図の1・2は深鉢の口縁部片で，1は口唇部にキザミ，口縁部に沈線と半截竹管による結節平行沈線文が施されている。2は口縁部に爪形文を巡らしている。3は深鉢の胴部片で，胎土に繊維を含み，複節縄文を施している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代前期後葉（浮島Ⅱ式期）と考えられる。



第300図　第574号住居跡実測図



第301図　第574号住居跡出土遺物実測図

第575号住居跡（第302・303図）

位置　調査区南部，H5cs区。

規模と平面形　径3.64～3.81mの円形である。

壁　壁高は34～38cmで，外傾して立ち上がる。

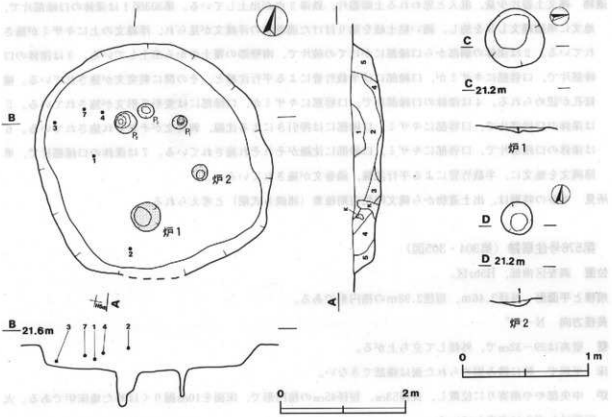
床　平坦である。全体的に床が軟らかく，特に踏み固められた面は見られない。

炉　2か所。炉1は中央部やや南寄りに位置し，径48cmの円形で，床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。火床面は，わずかに赤変硬化している。炉2は中央部やや東寄りに位置し，径26cmの円形で，床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。火床面は，わずかに赤変している。

炉1・2土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子少量

ピット　3か所（P_1～P_3）。P_1・P_2は径24～35cmの円形で，深さは46～59cmである。形状や配置から主柱穴と考えられる。P_3は径26cmの円形で，深さは42cmである。位置から補助柱穴の可能性も考えられるが，性格は不明である。

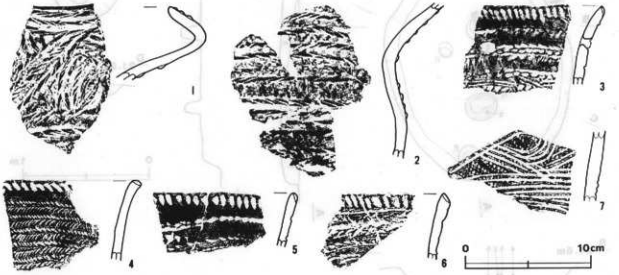


第302図　第575号住居跡実測図

覆土　5層からなる。ブロック状の堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

1　黒 褐 色　ローム粒子少量
2　黒 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
3　黒 褐 色　ローム粒子少量
4　黒 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量



第303図　第575号住居跡出土遺物実測図

遺物　縄文土器片少量，混入と思われる土師器片，鉄滓２点が出土している。第303図１は深鉢の口縁部片で，地文に単節縄文ＬＲを施し，細い粘土紐を貼り付けた渦巻状の浮線文が見られ，浮線文の上にキザミが施されている。２は深鉢の胴部から口縁部にかけての破片で，南壁際の覆土中から出土している。３は深鉢の口縁部片で，口唇部にキザミが，口縁部には半截竹管による平行沈線と，その間に刺突文が施されている。補修孔が認められる。４は深鉢の口縁部片で，口唇部にキザミが，口縁部には変形爪形文が施されている。５は深鉢の口縁部片で，口唇部にキザミ，口縁部には押引きによる沈線，刺突文がそれぞれ施されている。６は深鉢の口縁部片で，口唇部にキザミ，口縁部に沈線がそれぞれ施されている。７は深鉢の口縁部片で，単節縄文を地文に，半截竹管による平行沈線，渦巻文が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代前期後葉（諸磯ｂ式期）と考えられる。

第576号住居跡（第304・305図）

位置　調査区南部，H5b₂区。

規模と平面形　長径3.46m，短径2.98mの楕円形である。

長径方向　Ｎ－０°

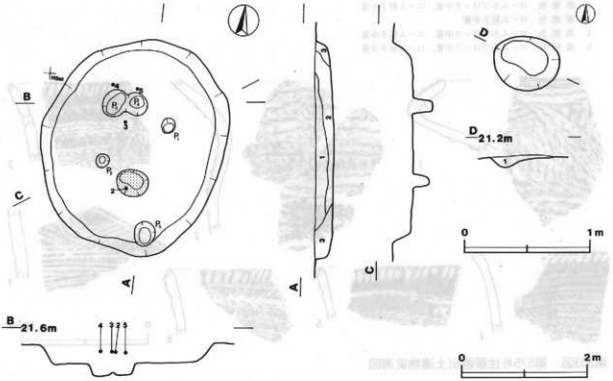
壁　壁高は29～32cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，特に踏み固められた面は確認できない。

炉　中央部やや南寄りに位置し，長径53cm，短径45cmの楕円形で，床面を10cm掘りくぼめた地床炉である。火床面はわずかに赤変している。

炉土層解説

1　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量



第304図　第576号住居跡実測図

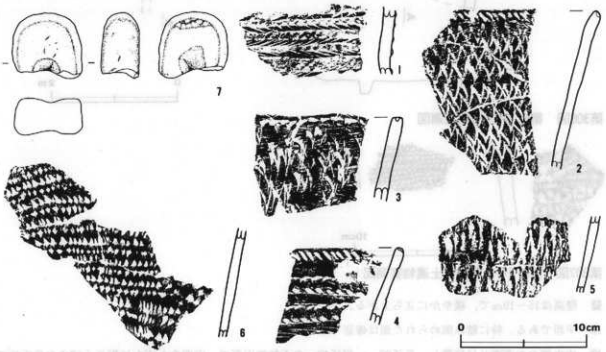
ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1は径25㎝の円形で，深さ32㎝，P_2は径23㎝の円形で，深さ26㎝である。いずれも主柱穴と思われる。P_3は長径45㎝，短径40㎝の楕円形で，深さは18㎝，P_4は径33㎝の円形で，深さ17㎝である。いずれも性格は不明である。P_5は南壁際に位置し，径35㎝の円形で，深さ14㎝である。性格は不明であるが，柱穴の可能性もある。

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム小ブロック・粒子少量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量
3　暗 褐 色　ローム粒子多量

遺物　縄文土器片中量，石器1点が出土している。第305図1は深鉢の胴部片で，数本の浮線文を平行に巡らせ，さらに浮線文の上にキザミが施されている。2～4は深鉢の口縁部片で，2・3は貝殻腹縁による波状文，4は半截竹管による結節平行沈線がそれぞれ施されている。5・6は深鉢の胴部片で，5は貝殻腹縁による波状文，6は三角文がそれぞれ施されている。7は凹石で覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代前期後葉（浮島Ⅱ式期）と考えられる。



第305図　第576号住居跡出土遺物実測図

第576号住居跡出土遺物観察表

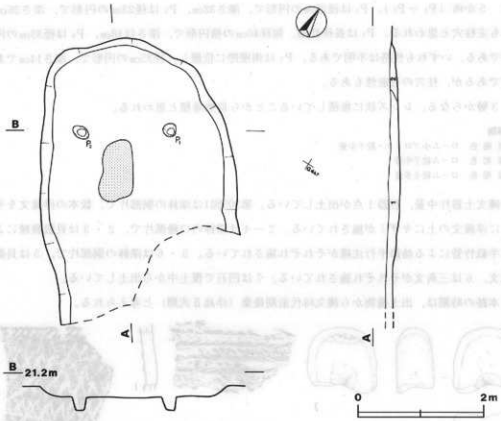
図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第305図7	凹石	(5.3)	5.5	3.1	(124)	安山岩	Q40，一部欠損，PL102，覆土

第577号住居跡（第306・307図）

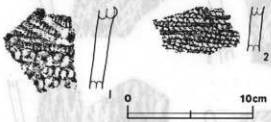
位置　調査区中央部，G4h6区。

規模と平面形　南東壁は撹乱を受け残存していないが，長径〔4.26〕m，短径3.17mの不整楕円形と推測される。

長径方向　N－37°－W



第306図　第577号住居跡実測図



第307図　第577号住居跡出土遺物実測図

壁　壁高は15～19㎝で，緩やかに立ち上がる。

床　平坦である。特に踏み固められた面は確認できない。

炉　中央部やや西寄りに位置し，長径97㎝，短径47㎝の不整楕円形で，床面をわずかに掘りくぼめた地床炉である。火床面はやや赤変している。

ピット　2か所（P_1・P_2）。P_1は径23㎝の円形で，深さ23㎝である。P_2は長径29㎝，短径20㎝の楕円形で，深さは22㎝である。いずれもその形状や配列から主柱穴と考えられる。

覆土　2層からなる。レンズ状の堆積をしていることから自然堆積と思われる。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子多量

遺物　縄文土器片少量が出土している。第307図1は口縁部から胴部にかけての破片で，胴部にループ文，口縁部には瘤状貼付文が施されている。2は胎土に繊維を含み，単節縄文ＲＬが施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代前期前葉（二ツ木式期）と考えられる。

第578号住居跡（第308・309図）

位置　調査区西部，H4b$_{11}$区。

重複関係　本跡は，第3480号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.23m，短軸2.14mの隅丸長方形である。

長軸方向　N－35°－W

壁　壁高は7～11cmで，緩やかに立ち上がる。

床　平坦である。特に踏み固められた面は確認できなかった。

炉　中央に位置し，径53cmの円形で，床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。火床面は，赤変している。

炉土層解説
1　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量

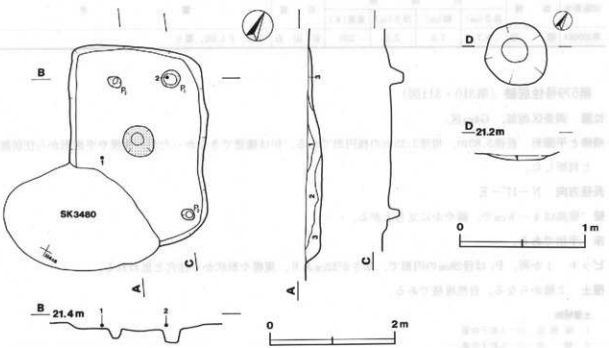
ピット　3か所（P_1～P_3）。P_1は径30cmの円形で，深さ20cmである。P_2は長径22cm，短径18cmの楕円形で，深さ15cmである。P_3は長径22cm，短径18cmの楕円形で，深さ22cmである。いずれも形状や配置から主柱穴と考えられる。

覆土　3層からなる。レンズ状の堆積をしていることから自然堆積と思われる。

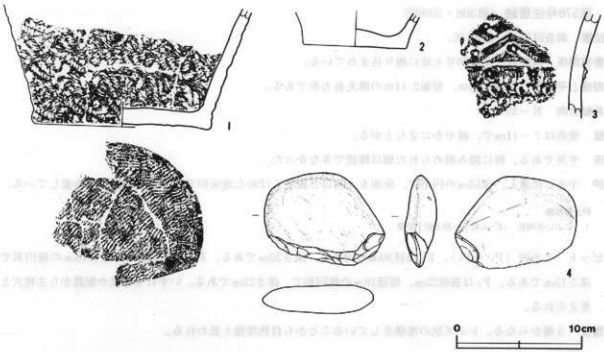
土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子中量

遺物　縄文土器片少量，石器1点が出土している。第309図1は深鉢の底部から胴部下半にかけての破片で，炉の南側の床面直上から，2は深鉢の底部片で，P_1上部の覆土中からそれぞれ出土している。3は深鉢の胴部から口縁部にかけての破片で，胴部にループ文，口縁部には沈線間にキザミと瘤状貼付文がそれぞれ施されている。4の礫器は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代前期前葉（二ツ木式期）と考えられる。



第308図　第578号住居跡実測図



第309図　第578号住居跡出土遺物実測図

第578号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第309図 1	深鉢 縄文土器	B(9.8) C 13.9	底部から胴部下半にかけての破片。平底で，胴部は外傾して立ち上がる。底面には縄文が，胴部にはループ文がそれぞれ施されている。	砂粒・スコリア にぶい橙色 普通	P327，PL102.30% (二ツ木式) 床面
2	深鉢 縄文土器	B(2.9) C 6.3	底部片。平底で，胴部は外傾して立ち上がる。	砂粒・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P328，PL102.10% 覆土

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第309図4	礫	9.7	7.6	2.3	220	安山岩	Q41，PL102，覆土

第579号住居跡（第310・311図）

位置　調査区西部，G4g8区。

規模と平面形　長径3.89m，短径3.35mの楕円形である。炉は確認できなかったが，規模や平面形から住居跡と判断した。

長径方向　N－17°－E

壁　壁高は4～8cmで，緩やかに立ち上がる。

床　平坦である。

ピット　1か所。P_1は径28cmの円形で，深さが32cmあり，規模や形状から柱穴と思われる。

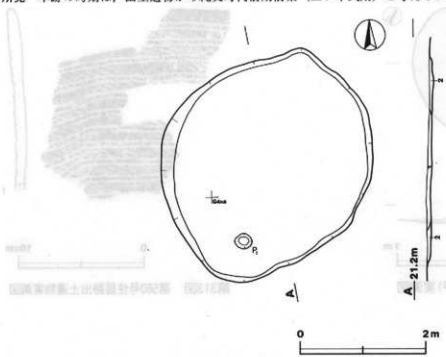
覆土　2層からなる。自然堆積である。

土層解説

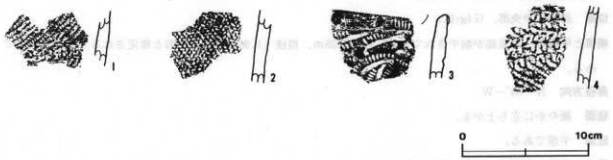
1　暗褐色　ローム粒子中量
2　褐　色　ローム粒子中量

遺物　縄文土器片少量が出土している。第311図1～4はいずれも深鉢の破片で，胎土に繊維を含んでいる。1・2は胴部片で，1には単節縄文ＬＲが，2には組紐文が，それぞれ施されている。3は口縁部片で，キザミをもつ細隆帯を巡らせ，瘤状貼付文が施されている。4は胴部片で，ループ文が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代前期前葉（二ツ木式期）と考えられる。



第310図　第579号住居跡実測図



第311図　第579号住居跡出土遺物実測図

第580号住居跡（第312・313図）

位置　調査区西部，G5g1区。

規模と平面形　覆土が削平されているため，壁の立ち上がりをとらえることができなかった。炉やピットが確認できたので住居跡と判断した。規模及び平面形は不明である。

床　確認できなかった。

ピット　2か所（P_1・P_2）。P_1は長径24cm，短径18cmの楕円形で，深さ19cmである。P_2は径30cmの円形で，深さ18cmである。いずれも性格は不明である。

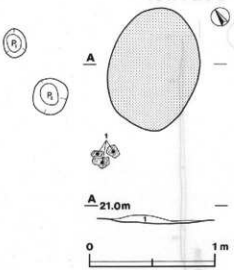
炉　長径1.00m，短径0.74mの楕円形で，床面をわずかに掘りくぼめた地床炉である。火床部は，赤変している。

炉土層解説

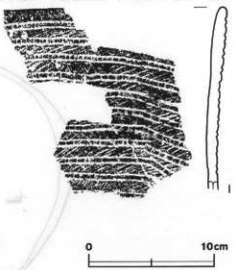
1　暗赤褐色　焼土粒子少量

遺物　縄文土器片少量が出土している。第313図1は深鉢の胴部から口縁部にかけての破片で，撚糸文を地文に，半裁竹管による結節平行沈線文が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代前期後葉（浮島Ⅰ式期）と考えられる。



第312図　第580号住居跡(炉)実測図



第313図　第580号住居跡出土遺物実測図

(2)　土　坑

第3474号土坑（第314・315図）

位置　調査区中央部，G4g₀区。

規模と平面形　南東部が削平されており，長径2.28m，短径〔1.96〕mの楕円形と推定される。深さは11cmである。

長径方向　N－54°－W

壁面　緩やかに立ち上がる。

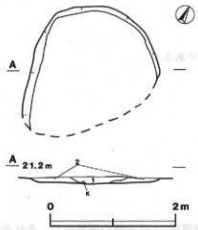
底面　平坦である。

覆土　2層からなり，自然堆積と考えられる。

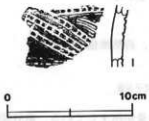
土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子少量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量

遺物　縄文土器片少量が出土している。第315図1は，深鉢の胴部片で，半裁竹管による結節平行沈線が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代前期後葉と考えられる。性格は不明である。



第314図　第3474号土坑実測図



第315図
第3474号土坑出土遺物実測図

第3476号土坑（第316・317図）

位置　調査区南部，H4as区。

規模と平面形　径2.26～2.27mの円形で，深さ37cmである。

壁面　外傾して立ち上がる。

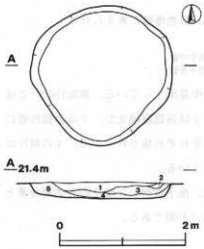
底面　ほぼ平坦である。

覆土　5層からなり，自然堆積と考えられる。

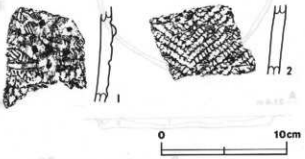
土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化物微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，ロームブロック少量
3　黒 褐 色　ローム粒子少量，炭化物微量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量，ロームブロック微量
5　褐　　色　ローム粒子中量

遺物　縄文土器片が少量出土している。第317図1・2とも深鉢の破片で，胎土に繊維を含んでいる。1は胴部から口縁部にかけての破片で，胴部にはループ文，口縁部には瘤状貼付文がそれぞれ施されている。2は胴部片で，施文方向を変えて，縄文が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代前期前葉と考えられる。性格は不明である。



第316図　第3476号土坑実測図



第317図　第3476号土坑出土遺物実測図

第3478号土坑（第318・319図）

位置　調査区南部，G4j₉区。

規模と平面形　長径1.50m，短径1.08mの楕円形で，深さ18cmである。

長径方向　N－77°－W

壁面　緩やかに立ち上がる。

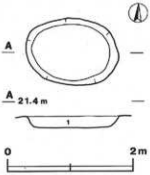
底面　平坦である。

覆土　単一層である。自然堆積である。

土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子少量

遺物　縄文土器片中量が出土している。第319図1は深鉢の口縁部片，2は深鉢の胴部片で，それぞれ貝殻腹縁による波状文が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代前期後葉と考えられる。性格は不明である。



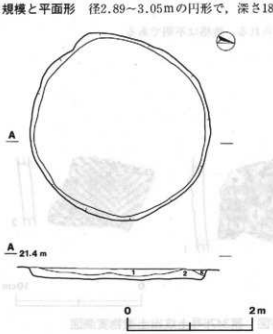
第318図　第3478号土坑実測図

第319図　第3478号土坑出土遺物実測図

第3482号土坑（第320・321図）

位置　調査区西部，H4b₃区。

規模と平面形　径2.89～3.05mの円形で，深さ18cmである。



第320図　第3482号土坑実測図

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　平坦である。

覆土　2層からなり，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子中量
2　褐　　色　ローム粒子多量

遺物　縄文土器片が中量出土している。第321図1・2は深鉢の胴部片で，1は貝殻腹縁文が，2は半截竹管による平行沈線が，それぞれ施されている。3の剥片は，覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代前期後葉と考えられる。性格は不明である。

第321図　第3482号土坑出土遺物実測図

第3482号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
第321図3	剝片	3.4	1.7	0.9	5.7	頁岩	Q42, PL104, 覆土

第3488号土坑（第322・323図）

位置　調査区南部，H4d₀区。

規模と平面形　長径1.52m，短径1.24mの楕円形で，深さ36～58cmである。

長径方向　N－9°－E

壁面　ほぼ垂直に立ち上がる。

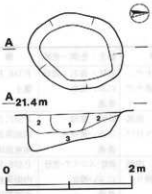
底面　西側に24cmほど下がり，傾斜している。

覆土　3層からなり，自然堆積と考えられる。

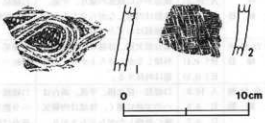
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量
2　暗褐色　ローム粒子少量
3　褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

遺物　縄文土器片が少量出土している。第323図1は深鉢の口縁部片で，縄文を地文に，半截竹管による平行沈線が施されている。2は深鉢の胴部片で，貝殻腹縁による波状文が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代前期後葉と考えられる。性格は不明である。



第322図　第3488号土坑実測図



第323図　第3488号土坑出土遺物実測図

2　平安時代の遺構と遺物

(1)　竪穴住居跡

第572号住居跡（第324・325・326図）

位置　調査区東部，G6j₂区。

重複関係　本跡の南東部壁際が，第196号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.83m，短軸3.16mの隅丸長方形である。

主軸方向　N－2°－E

壁　壁高は4～14cmで，緩やかに立ち上がる。

床　平坦である。中央部がわずかに踏み固められている。竈付近に炭化材が確認されている。

竈　北壁中央部を50cmほど掘り込み，砂質粘土で構築している。規模は長さ68cm，幅48cmである。袖部は短く，西袖の内面には，補強材として土師器甕片を貼り付けている。天井部は崩落している。火床部は，皿状で赤変硬化している。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。竈内からは，土師器片が多量に出土している。

竈土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
3　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子微量

覆土　2層からなる自然堆積である。

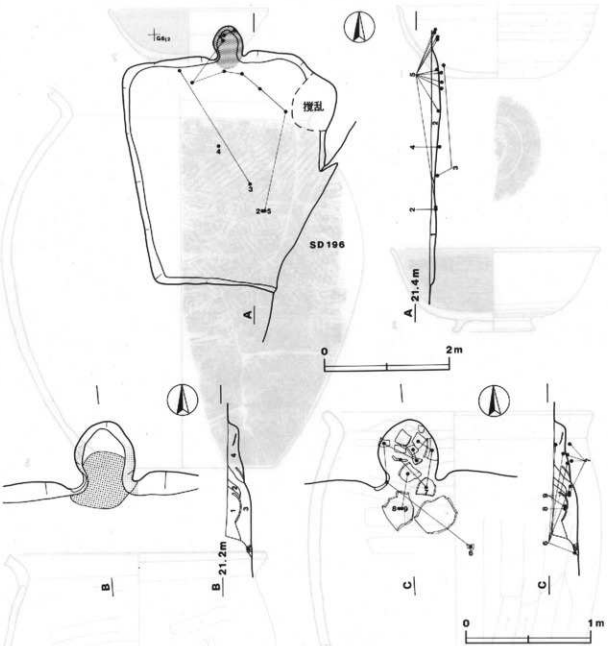
土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
2　黒褐色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化材微量

遺物　土師器片中量，須恵器片・鉄製品1点，縄文土器片少量が出土している。第325・326図1の土師器坏は覆土中から，2の土師器高台付坏は南東部の床面から横位の状態で，3の土師器高台付椀は北壁際の床面から逆位の状態で，4の土師器甕は中央部の床面から横位の状態で，それぞれ出土している。5の土師器甕は，南東部・北部の床面から出土したものと竈内から出土したものとが接合したものである。6～8の土師器甕，9の土師器甑は，竈内からそれぞれ出土している。10の椀は，覆土中から出土したものである。

所見　本跡は，床面や覆土中から炭化材が確認されていることから，焼失家屋と考えられる。時期は，出土遺物から10世紀前葉と考えられる。

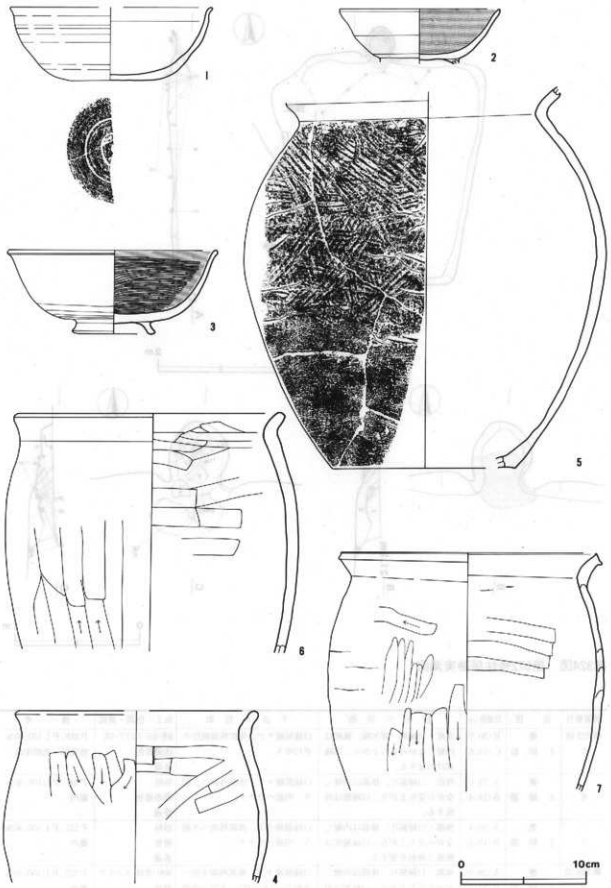
第572号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第325図 1	坏 土師器	A(16.2) B 5.9 C 7.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部・体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後，一部ナデ調整。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P316，P L100，40% 覆土
2	高台付坏 土師器	A 12.8 B(4.4) E(0.5)	高台部欠損。体部は内彎気味に外傾しながら立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部・体部外面横ナデ。底部回転ヘラ切り。高台は貼り付け。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P317，P L99，80% 内面黒色処理 南東部床面
3	高台付椀 土師器	A 16.8 B 6.8 D 6.7 E 1.0	口縁部一部欠損。平底。高台はハの字状に開く。体部は内彎気味に外傾しながら立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部・体部外面横ナデ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台は貼り付け。	砂粒・スコリア・雲母 にぶい橙色 普通	P318，P L100，95% 内面黒色処理 北壁際床面
4	甕 土師器	A(18.8) B(13.8)	体部・口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面下位ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P323，P L100，10% 中央部床面

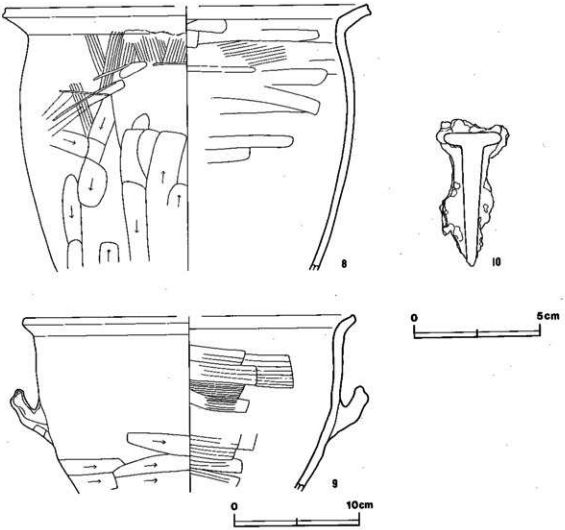


第324図　第572号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第325図 5	甕 土師器	B(30.9) C(14.6)	底部・口縁部一部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面斜位の平行叩き。	8粒・長石・スコリア・小石 浅黄橙色 普通	P319，PL100，90% 南東部・北部床面
6	甕 土師器	A 21.0 B(19.4)	体部・口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒 暗赤褐色 普通	P320，PL100，30% 竈内
7	甕 土師器	A 20.4 B(19.1)	体部・口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がる。口縁端部は断面三角形を呈する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒 橙色 普通	P321，PL100，30% 竈内
第326図 8	甕 土師器	A(29.0) B(21.3)	体部・口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部は断面三角形を呈する。	口縁部横ナデ。体部外面上位ヘラ削り（ハケ目状）。下位・内面ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P322，PL100，20% 竈内



第325図　第572号住居跡出土遺物実測図(1)



第326図　第572号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第326図 9	甕 土師器	A(26.4) B(14.1)	体部・口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラ(ハケ目状)削り。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P324, P L100,10号竈内

図版番号	器種	計測値				材質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第326図10	楔	5.9	(2.75)	(1.5)	(50.0)	鉄	M25, P L99, 覆土

第573号住居跡（第327・328図）

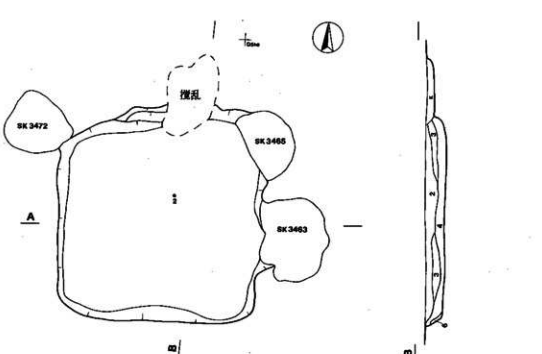
位置　調査区中央部，G5hs区。

重複関係　北壁中央部は攪乱を受け，東部は第3463・3465号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.48m，短軸3.15mの隅丸長方形をしている。

壁　壁高16～34cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦である。



第327図　第573号住居跡実測図

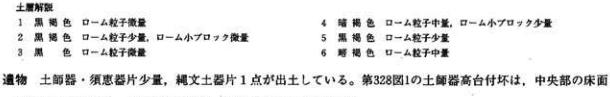
覆土　6層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

1　黒褐色　ローム粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
3　黒　色　ローム粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　黒褐色　ローム粒子少量
6　暗褐色　ローム粒子中量

遺物　土師器・須恵器片少量，縄文土器片1点が出土している。第328図1の土師器高台付坏は，中央部の床面から出土している。2の須恵器坏は，覆土中から出土している。

所見　時期は出土遺物から，10世紀前葉と考えられる。



第328図　第573号住居跡出土遺物実測図

第573号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第328図 1	高台付坏 土師器	A(14.0) B(4.9)	底部から口縁部の破片。体部は内彎気味に外傾する。	口縁部・体部横ナデ。高台は貼り付け。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P326，P L101，10% 内面黒色処理 中央部床面
2	坏 須恵器	A(15.8) B(4.2)	底部から口縁部の破片。体部は内彎気味に外傾し，口縁部は外反する。	口縁部・体部ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 不良	P325，P L101，20% 覆土

3　中・近世の遺構と遺物

(1)　火葬土坑

第3485号土坑（第329図）<付章参照>

位置　調査区西部，H3b9区。

規模と形状　燃焼部は長径68cm，短径55cmの楕円形，開口部は径15cmの円形である。燃焼部と開口部とは，長さ18cm，幅9～14cmの通気孔を介して繋がれている。

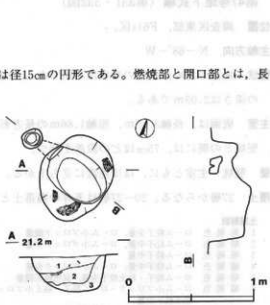
長軸方向　N－58°－W

壁面　燃焼部は深さ20cm，開口部は深さ28cmで，ともにほぼ垂直に立ち上がる。通気孔の深さは，10～15cmで断面形は「U」字状である。

底面　燃焼部は皿状であり，赤変している。開口部は平坦である。

覆土　3層からなり，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　にぶい赤褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化物・骨片少量
2　黒　　色　炭化物多量，骨片中量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化物少量



第329図　第3485号土坑実測図

所見　本跡は，燃焼部底面が被熱により赤変し，骨片・炭化物・炭化材が出土していることから，火葬土坑とした。時期は，形状から中世と思われる。

第3490号土坑（第330図）

位置　調査区西部，H3b9区。

規模と形状　燃焼部は長軸64cm，短軸60cmの不定形，開口部は径16cmの円形である。燃焼部と開口部とは，長さ14cm，幅6－11cmの通気孔を介して繋がっている。

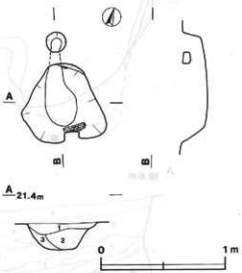
長軸方向　N－9°－E

壁面　燃焼部は深さ19cmで，緩やかに立ち上がる。開口部は深さ15cmで，外傾して立ち上がる。通気孔の深さは11cmで，断面形は「U」字状である。

底面　燃焼部から開口部にかけて皿状になっている。燃焼部は，赤変している。

覆土　3層からなり，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，炭化材・骨片少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子微量



第330図　第3490号土坑実測図

所見　本跡は，燃焼部底面が焼け，骨片・炭化材・炭化粒子が出土していることから，火葬土坑とした。時期は，形状から中世と思われる。

(2) 地下式壙

第47号地下式壙（第331・332図）

位置 調査区東部，F6is区。

主軸方向 N－68°－W

竪坑 崩落のため，上面の形状は不明である。底面は長軸85cm，短軸81cmの方形で，平坦である。確認面からの深さは2.03mである。

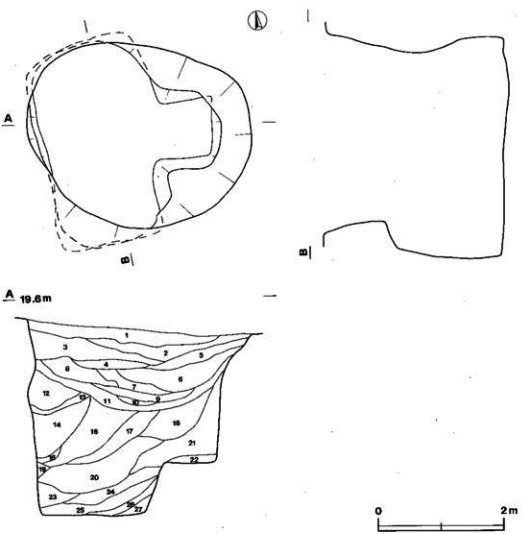
主室 底面は，長軸3.25m，短軸1.86mの長方形で，平坦である。確認面から底面までの深さは3.15mである。竪坑との間には，75cmほどの段差を持つ。

壁 竪坑・主室ともに，ほぼ垂直に立ち上がる。

覆土 27層からなる。20～27層は天井の崩落土と考えられる。自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3 暗褐色 ローム粒子中量
4 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量
7 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
8 暗褐色 ローム中ブロック・粒子少量
9 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
10 黒褐色 ローム粒子少量
11 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
12 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
13 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
14 褐色 ローム小ブロック・粒子中量
15 黒褐色 ローム粒子多量

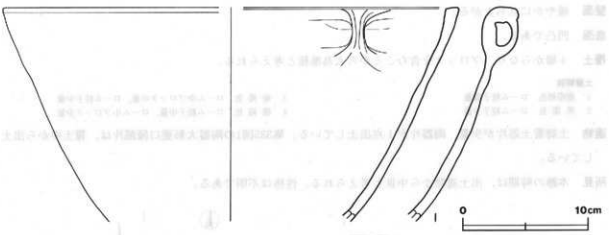


第331図 第47号地下式壙実測図

16 褐　色 ローム小ブロック・粒子多量
17 褐　色 ローム小ブロック・粒子多量
18 暗褐色 ローム粒子少量
19 灰黄褐色 粘土ブロック多量
20 褐　色 ローム中ブロック・粒子多量
21 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量
22 暗　褐　色 ローム粒子中量
23 灰 黄 褐 色 粘土ブロック多量
24 にぶい黄褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
25 灰 黄 褐 色 粘土ブロック中量，ローム粒子少量
26 灰 黄 褐 色 粘土ブロック多量，ローム粒子微量
27 黒 褐 色 ローム粒子中量，灰黄褐色粘土ブロック微量

遺物　土師質土器片1点が出土している。第332図1は内耳鍋で，外面はかなり強い火を受け煤が付着している。

所見　大型の地下式壙である。性格については，J区に中世の墓壙と思われる遺構が数多く確認されていることから，墓域との関連性があるものと思われる。



第332図　第47号地下式壙出土遺物実測図

第47号地下式壙出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第332図 1	内耳鍋 土師質土器	A〔36.4〕 B〔17.2〕	体部から口縁部の破片。内耳1か所残存。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P329，P L 104，20% 体部外面煤付着 覆土

(3) 土　坑

第3466号土坑（第333図）

位置　調査区東部，G6b4区。

規模と平面形　長径1.16m，短径〔1.0〕mの楕円形で，深さ45cmである。

長径方向　N－83°－W

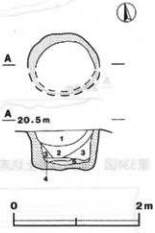
壁面　緩やかに立ち上がる。全面に粘土が貼られており，粘土の厚さは約10cmである。

底面　皿状を呈する。粘土が約10cmの厚さで貼られている。

覆土　5層からなる。ブロックを含んでいることから人為堆積と思われる。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子微量
3 褐灰色 粘土ブロック多量
4 黒褐色 粘土粒子少量，炭化物微量
5 黒褐色 粘土ブロック中量



第333図
第3466号土坑実測図

遺物　磁器片２点が出土している。

所見　遺構の形状や出土遺物から近世の墓横と考えられる。

第3475号土坑（第334・335図）

位置　調査区東部，G6a₂区。

規模と平面形　長径5.78m，短径4.80mの不定形で，深さ10～43cmである。

長径方向　N－67°－E

壁面　緩やかに立ち上がる。

底面　凹凸である。

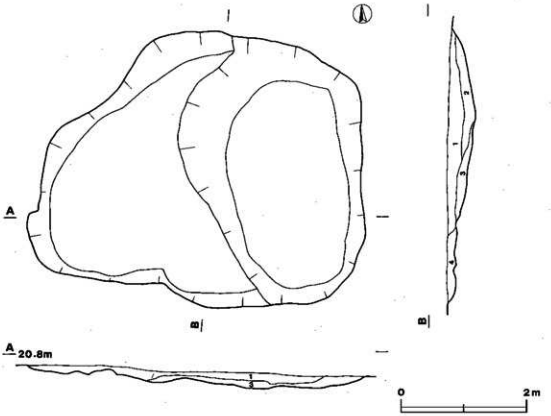
覆土　４層からなり，ブロックを含むことから人為堆積と考えられる。

土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム中ブロック中量，ローム粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　土師質土器片が少量，陶器片が１点出土している。第335図1の陶器大形甕口縁部片は，覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から中世と考えられる。性格は不明である。



第334図　第3475号土坑実測図

第335図　第3475号土坑出土遺物実測図

第3475号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第335図 1	大形甕 陶器	A〔29.6〕 B〔4.8〕	口縁部の破片。頸部は内彎し，口縁部はわずかに外反する。口縁部に3条の沈線文を施している。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石・金砂・スコリアにぶい橙色 普通	P330，P L 104，5％ 覆土

第3484号土坑（第336・337図）＜付章参照＞

位置　調査区東部，G6a4区。

規模と平面形　北東側は削平されて残存しない。長径1.68m，短径〔1.18〕mの楕円形と推定される。深さは18cmである。

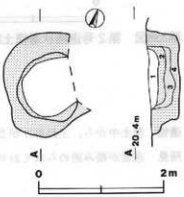
長径方向　N－28°－W

壁面　緩やかに立ち上がる。粘土が貼られており，粘土の厚さは約25～45cmである。

底面　平坦である。粘土が貼られており，厚さは35cmで，3層に分層される。

覆土　覆土は1層のみである。2～4層は側面と底面に貼られた粘土の層である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　にぶい黄褐色　粘土粒子中量，粘土中ブロック・ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量
4　黄　褐　色　粘土大ブロック・粘土粒子多量，ローム粒子少量



第336図　第3484号土坑実測図

遺物　陶器片3点が，出土している。第337図1は，瀬戸・美濃系の香炉である。2は，瀬戸・美濃系の菊皿である。

所見　遺構の形状や出土遺物から近世の墓壙と考えられる。

第337図　第3484号土坑出土遺物実測図

第3484号土坑出土遺物観察表

番号	器形	器質	計測値(cm) A	B	D	E	残存率	胎土色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	備考
第337図 1	香炉	陶器	〔22.6〕	〔4.8〕	－	－	10％	灰白色 エメラルド色	緑色の釉	口縁部内・外面に緑色の釉。	瀬戸・美濃系 近世	P331，P L 104 覆土
2	菊皿	陶器	－	－	6.5	1.0	50％	浅黄橙色 灰白色	灰釉	内面打ち出し菊花文。	瀬戸・美濃系 中世後半	P332，P L 104 覆土

4　時期不明の遺構

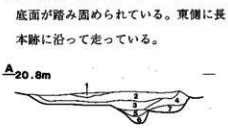
(1)　道路状遺構

第２号道路状遺構（第338・344図）

位置　調査区の東部，G6i₃～G6a₇区。

重複関係　本跡の一部を第195号溝が掘り込んでいる。

規模と形状　長さ（39.0）ｍで，上幅1.3～2.7m，下幅0.9～1.7m，深さ0.15～0.51mである。溝状になった底面が踏み固められている。東側に長さ〔13.3〕ｍ，上幅0.4～1.1m，下幅0.1～0.2m，深さ0.25mの溝が本跡に沿って走っている。



第338図　第２号道路状遺構土層断面図

方向　G6i₃区からG6a₇区へ直線的に走り，それぞれ調査区外に延びている。方向はＮ－22°－Ｅである。

覆土　７層からなり，レンズ状の堆積をしているので自然堆積と思われる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量
4　褐　色　ローム粒子中量
5　褐　色　ローム中ブロック・粒子少量
6　褐　色　ローム粒子少量
7　褐　色　ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量

遺物　覆土中から，土師器片が２点，須恵器片・土師質土器片が１点が出土している。

所見　底面が踏み固められており，長期間にわたって使用されたものと考えられる。詳細な時期は不明である。

(2)　溝

第195号溝（第339・344図）

位置　調査区東部，G6es～G6e₃区。

重複関係　本跡の東端が，第２号道路状遺構を掘り込んでいる。

規模と形状　長さ11.5mで，上幅0.32～1.24m，下幅0.10～0.60m，深さ0.68m前後である。断面形はＵ字形である。

方向　G6es区から北西（Ｎ－59°－Ｗ）に，ほぼ直線的に延びている。

覆土　４層からなり，人為堆積である。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量
3　褐　色　ローム中ブロック・粒子中量
4　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量

遺物　本跡に伴う遺物は出土していない。

所見　本跡の時期や性格は不明である。第２号道路状遺構より新しい。

第196号溝（第339・344図）

位置　調査区東部，G6b6～F6i6区。

重複関係　本跡は第3491号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長さ12.4mで，上幅0.10～1.10m，下幅0.19～0.60m，深さ0.34m前後である。断面形はU字形である。

方向　G6b6区から北（N－2°－W）に，ほぼ直線的に延びている。

覆土　2層からなる。ブロックを含むことから人為堆積と思われる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量

遺物　本跡に伴う遺物は出土していない。

所見　本跡の時期や性格は不明である。第3491号土坑より古い。

第197号溝（第339・344図）

位置　調査区南東部，H6a2～G6h3区。

重複関係　本跡が第572号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長さ11.2mで，上幅0.52～0.92m，下幅0.20～0.42m，深さ0.12～0.15mである。断面形は，U字形である。

方向　H6a2区から北東（N－31°－E）に，ほぼ直線的に延びている。

覆土　2層からなる。ブロックを含むことから人為堆積と思われる。

土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・粒子中量

遺物　本跡に伴う遺物は出土していない。

所見　本跡の時期や性格は不明である。第572号住居跡より新しい。

第198号溝（第344図）

位置　調査区北東部，F6h6～F6g7区。

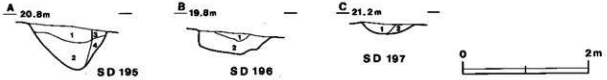
重複関係　本跡は第3492号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長さ11.6mで，上幅0.70～1.21m，下幅0.10～0.79mである。

方向　F6h6区から北東（N－24°－E）に，延びている。

遺物　本跡に伴う遺物は出土していない。

所見　本跡の時期や性格は不明である。第3492号土坑より古い。



第339図　第195・196・197号溝土層断面図

(3) その他の土坑

時期・性格が不明の土坑である。これらについては一覧表で記す。

第3463号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

第3467号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

第3469号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム小ブロック・粒子少量
2 黒 褐 色 ローム小ブロック・粒子少量

第3470号土坑土層解説
1 褐 色 ローム粒子少量

第3471号土坑土層解説
1 褐 色 ローム粒子少量
2 褐 色 ローム粒子中量

第3472号土坑土層解説
1 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量
2 褐 色 ローム粒子中量

第3477号土坑土層解説
1 褐 色 ローム小ブロック・粒子中量
2 褐 色 ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量
4 褐 色 ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック少量

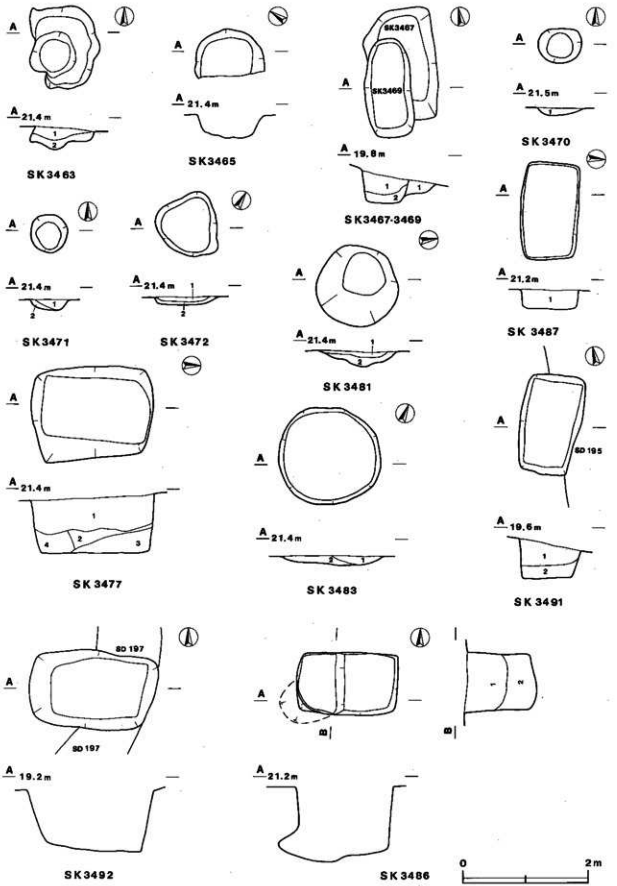
第3481号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子少量，炭化物微量
2 黒 褐 色 ローム粒子・炭化材少量

第3483号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量
2 褐 色 ローム粒子中量

第3486号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量
2 暗 褐 色 ローム小ブロック・粒子少量

第3487号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量

第3491号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック微量
2 暗 褐 色 ローム小ブロック・粒子少量



第340図　その他の土坑実測図

5　遺構外出土遺物

当遺跡から遺構に伴わないで出土した遺物について，特色のあるものを抽出し，拓影図，実測図及び一覧表で掲載した。

第341図１～34は縄文土器片の拓影図である。器種はすべて深鉢と思われる。

１は口縁部片で，口唇部が肥厚し，縦位に縄文が施されている。時期は縄文時代早期前葉（井草式）である。

２・３は胴部片で，貝殻条痕文が施されている。時期は縄文時代早期後葉（茅山下層式）である。

４～16は胎土に繊維を含んでおり，縄文時代前期前葉の土器である。４～６は胴部から口縁部にかけての破片で，瘤状貼付文とキザミを有する細隆帯が施されている。７は胴部片で，ループ文が施されている。４～７は二ツ木式に属するものである。８～12は胴部片で，８は組紐文が，９は無節のＬ縄文が，10は絡条体圧痕文が，11は条線が施されている。12は無文である。13～16は口縁部片で，13は絡条体圧痕文が，14は複節縄文が施されている。15は貝殻背圧痕文，16は縄文の押圧が施されている。

17～25は縄文時代前期後葉の土器である。17は半截竹管による平行沈線が施されている。18は半截竹管による平行沈線が施され，さらに沈線間には爪形文が施されている。19～21は口縁部片で，細い粘土紐で渦巻状の浮線文が貼付されている。17～21は諸磯ｂ式に属するものである。22・23は胴部片で，22は貝殻背圧痕文，23は貝殻波状文がそれぞれ施されている。浮島Ⅱ式に属するものである。24は口縁部片で，口縁部に３本の平行沈線を施している。浮島Ⅲ式に属するものである。25～28は口縁部片で，25は口縁直下に縦位の条線，下端には凹凸条の刺突文を施している。興津式に属するものである。

26～30は縄文時代中期前葉の土器である。26は口唇部にキザミ，口縁部には半截竹管による押引文が施されている。27は波状口縁で，半截竹管による刺突文・平行沈線を施し，波頂下には瘤を貼付し，さらに瘤を棒状工具で刺突している。28は口唇部にキザミ，口縁部には縦位に条線を施している。29は胴部片で，撚糸文を地文とし綾織文を施している。下小野式に属するものである。30は胴部から口縁部にかけての破片で，区画文の隆帯に沿って角押文が施されている。阿玉台Ⅰ式に属するものである。

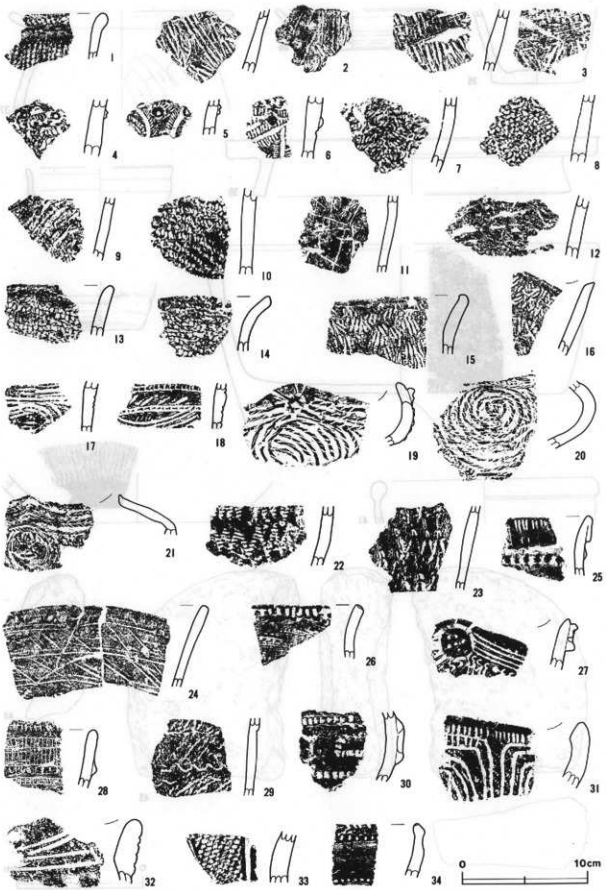
31～33は縄文時代中期中葉の土器である。31・32は波状口縁部片で，31は口唇部にキザミ，口縁部には曲線の沈線が施されている。32は平行沈線が施されている。33は胴部片で複節縄文を地文とし沈線による懸垂文が施されている。加曽利ＥⅠ式に属するものである。

34の口縁部片は，口唇部にキザミ，下位に刺突文が施されている。時期は縄文時代後期中葉（加曽利Ｂ式）である。

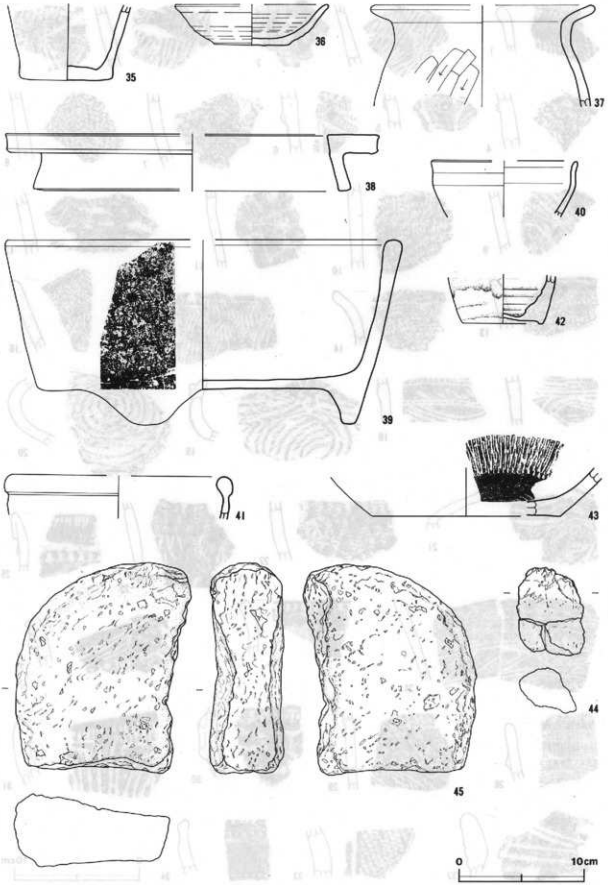
遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第342図 35	深鉢 縄文土器	B（6.1） C　7.4	底部から胴部下半にかけての破片。底部は上げ底で，胴部は外傾して開く。無文である。	砂粒・長石・スコリア にぶい橙色 普通	P335，PL105.20% 表面採集

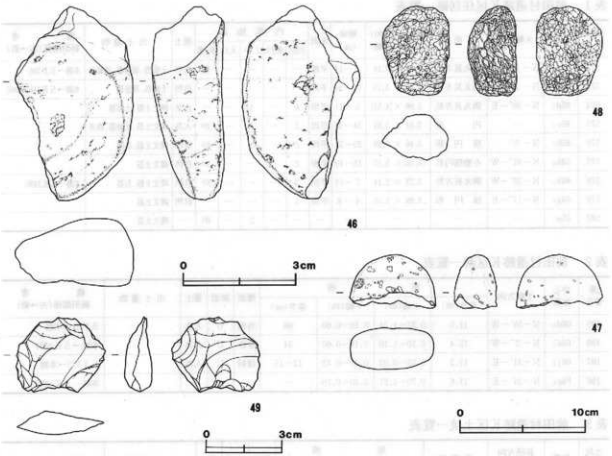
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第342図 36	坏 土師器	A（12.2） B　3.3 C（6.0）	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外側して立ち上がる。	口縁部・体部外面横ナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P334，PL105.20% 表面採集
37	甕 土師器	A（17.4） B（8.1）	体部から口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P334，PL105.20% 表面採集
38	甕 土師質土器	A（30.0） B　4.6 C（25.4）	羽釜の鍔を受ける部分は水平である。断面形は逆Ｌ字形である。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P341，PL105.5％ 表面採集



第341図　遺構外出土遺物実測図(1)



第342図　遺構外出土遺物実測図(2)



第343図　遺構外出土遺物実測図(3)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第342図39	火舎 瓦質土器	A〔31.4〕 B 14.8 D〔24.4〕 E 2.8	底部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに外傾して立ち上がる。三足がつき，体部に刻印花紋が施されている。	体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P336，PL105，30% 表面採集

番号	器形	器質	計測値(cm) A	B	C	D	残存率	胎土色調	釉付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	備考
第342図40	天目茶碗	陶器	〔11.6〕	(4.4)	—	—	10%	浅黄橙色 黒褐色	鉄釉	口縁部はわずかに屈曲し，短く外反。	瀬戸・美濃系 17C前葉	P337，PL105 表面採集
41	擂鉢	陶器	〔17.0〕	(3.4)	—	—	5%	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	灰釉	口縁部内・外面に釉。貫入が目立つ。	不明 近世	P338，PL105 表面採集
42	捻判	陶器	—	(4.0)	6.4	—	10%	灰黄色 灰白色	灰釉	底部に釉付着。	瀬戸・美濃系 近世	P339，PL105 表面採集
43	擂鉢	陶器	—	(3.9)	〔15.2〕	—	5%	暗赤褐色 にぶい赤褐色	鉄釉	多条の擂り目。	明石・堺系 近世	P340，PL105 表面採集

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	径(cm)	孔径(mm)	重量(g)	現存率(%)	備考
第342図44	羽口	(7.1)	(5.1)	—	(72.0)	15	DP18，PL105，表面採集

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
第343図45	石皿	(16.9)	(13.9)	6.0	(1900.0)	安山岩	Q43，一部欠損，PL107，表面採集
第343図46	石皿	(15.6)	(9.5)	5.8	(896.0)	安山岩	Q44，一部欠損，PL107，表面採集
47	磨石	(4.3)	6.9	3.4	(110.0)	安山岩	Q45，一部欠損，PL107，表面採集
48	不明石器	7.2	5.3	4.0	100.0	軽石	Q46，PL107，表面採集
49	剥片	3.0	3.5	1.1	10.2	チャート	Q47，PL107，表面採集

表1　前田村遺跡K区住居跡一覧表

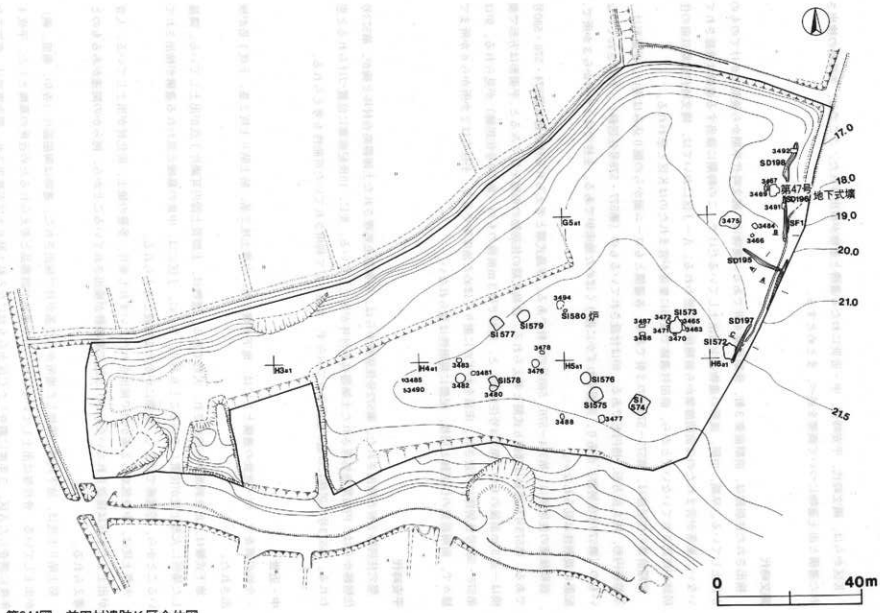
住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設 主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口	炉・竈	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
572	G6j₂	N－2°－E	隅丸長方形	3.83 × 3.16	4～14	平坦	—	—	—	—	竈	自然	土師器,須恵器,鉄製品	本跡→SD196
573	G5h₈	N－2°－W	隅丸長方形	3.48 × 3.15	16～34	平坦	—	—	—	—	—	自然	土師器,須恵器	本跡→SK3463,3465
574	H5d₇	N－38°－E	隅丸長方形	5.06 ×(4.32)	6～11	平坦	6	—	4	—	—	自然	縄文土器,土師器	
575	H5c₉	—	円　形	3.81 × 3.64	34～38	平坦	2	—	1	—	炉	人為	縄文土器,土師器,鉄滓	
576	H5b₂	N－0°	楕　円　形	3.46 × 2.98	29～32	平坦	2	—	3	—	炉	自然	縄文土器,石器	
577	G4h₈	N－37°－W	不整楕円形	(4.28)× 3.17	15～19	平坦	2	—	—	—	炉	自然	縄文土器	
578	H4b₅	N－35°－W	隅丸長方形	3.23 × 2.14	7～11	平坦	3	—	—	—	炉	自然	縄文土器,石器	本跡→SK3480
579	G4g₈	N－17°－E	楕　円　形	3.89 × 3.35	4～8	平坦	1	—	—	—	—	自然	縄文土器	
580	G5g₁	—	—	—	—	—	—	—	2	—	炉	—	縄文土器	

表2　前田村遺跡K区溝一覧表

溝番号	中心位置	主軸方向	規模 長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)	壁面	断面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
195	G6d₄	N－59°－W	11.5	0.32～1.24	0.10～0.60	68	外傾	U	人為		SF2→本跡
196	G6a₈	N－2°－W	12.4	0.10～1.10	0.19～0.60	34	垂直	U	人為		本跡→SK3491
197	G6j₃	N－31°－E	11.2	0.52～0.92	0.20～0.42	12～15	緩斜	U	人為		SI572→本跡
198	F6g₈	N－24°－E	11.6	0.70～1.21	0.10～0.79	—	—	—	—		本跡→SK3492

表3　前田村遺跡K区土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出上遺物	備考
3463	G5h₈	N－10°－W	不　整　形	1.32 × 0.97	36	外傾	凹凸	自然		SI573→本跡
3465	G5h₈	N－25°－W	不　整　形	1.10 × 0.76	36	外傾	凹凸	—		SI573→本跡
3466	G6b₄	N－83°－W	楕　円　形	1.16 ×(1.00)	45	緩斜	皿状	人為	磁器	粘土貼土坑
3467	F6i₅	N－7°－E	隅丸長方形	1.82 × 1.10	20	緩斜	平坦	人為		本跡→SK3469
3469	F6i₅	N－3°－E	隅丸長方形	1.60 × 0.76	47	外傾	平坦	人為		SK3467→本跡
3470	G5i₄	N－78°－W	楕　円　形	0.67 × 0.58	12	緩斜	皿状	自然		
3471	G5h₈	—	円　形	0.61 × 0.58	16	外傾	平坦	自然		
3472	G5h₈	—	円　形	1.04 × 1.02	12	外傾	平坦	自然		
3474	G4g₈	N－54°－W	(楕　円　形)	2.28 ×(1.96)	11	緩斜	平坦	自然	縄文土器	
3475	G6a₂	N－67°－E	不　定　形	5.78 × 4.80	43	緩斜	凹凸	人為	土師質土器,陶器	
3476	H4a₈	—	円　形	2.27 × 2.26	37	外傾	平坦	自然	縄文土器	
3477	H5e₃	N－9°－W	長　方　形	1.97 × 1.47	91	垂直	平坦	人為		
3478	H4j₅	N－77°－W	楕　円　形	1.50 × 1.08	18	緩斜	平坦	自然	縄文土器	
3480	H4b₈	N－54°－E	楕　円　形	2.12 × 1.72	—	—	—	—		SI578と重複
3481	H4a₄	—	円　形	1.32 × 1.28	24	緩斜	凹凸	自然		
3482	H4b₃	—	円　形	3.05 × 2.89	18	外傾	平坦	自然	縄文土器,石器	
3483	G4j₃	—	円　形	1.65 × 1.62	16	緩斜	平坦	自然		
3484	G6a₄	N－28°－W	楕　円　形	1.68 ×(1.18)	18	緩斜	平坦	人為	陶器	
3486	G5i₈	N－90°	長　方　形	1.62 × 1.01	113	垂直	平坦	人為		
3487	G5h₈	N－88°－E	長　方　形	1.58 × 0.93	30	垂直	平坦	人為		粘土貼土坑
3488	H4d₅	N－9°－E	楕　円　形	1.52 × 1.24	58	垂直	平坦	自然	縄文土器	
3491	F6j₅	N－15°－E	長　方　形	1.61 × 0.97	64	垂直	平坦	人為		SD196→本跡
3492	F6f₈	N－85°－W	長　方　形	(2.00)× 1.18	99	垂直	平坦	—		SD198→本跡



第344図　前田村遺跡K区全体図

6　まとめ

K区からは，縄文時代，平安時代，中・近世にわたる遺構と遺物が検出された。ここでは，各時期の検出された遺構と出土遺物について概要を述べ，まとめとする。

縄文時代

検出された住居跡は，前期前葉3軒，後期後葉4軒である。遺物は，縄文時代早期から後期にかけてのものが出土している。早期，中期，後期の遺物は少量出土しているだけで，この時期に該当する遺構は確認されていない。集落が営まれたのは前期前葉から前期後葉と思われる。A～J区においては，縄文時代前期以前の住居跡が確認されていないことから，前田村遺跡で最初に集落が営まれたのはK区と思われる。

前期前葉の住居跡は，第577～579号の3軒である。各遺構ともローム面からの掘り込みは浅い。平面形は，不整楕円形，隅丸長方形，楕円形である。炉は付設されているもの（第577・578号住居跡），付設されていないもの（第579号住居跡）があり，床面をわずかに掘りくぼめた地床炉である。主柱穴は1か所から3か所で，配置に規則性は見られない。

前期後葉の住居跡は，第574～576，580号の4軒である。浮島式期と考えられる住居跡は第574・576・580号である。第575号住居跡は諸磯b式期と考えられる。浮島式期の住居跡の形態を見てみると，平面形は方形で規模は一辺5m前後のもの（第574号住居跡）と，円形で径3m前後のもの（第576号住居跡）が見られる。炉は第576・580号住居跡に付設され，床面をわずかに掘りくぼめた地床炉である。主柱穴は2か所から6か所まで様々で，前期前葉の住居跡と同様，配置に規則性は見られない。

平安時代

竪穴住居跡2軒が検出された。第572号住居跡からは，内面黒色処理された土師器高台付坏と椀が，第573号住居跡からは，内面黒色処理された土師器高台付坏が出土している。共に，10世紀前葉に位置づけられると思われる。第573号住居跡には竈が設置されておらず，倉庫として利用されていた可能性も考えられる。

中・近世

今回の調査で，中・近世の遺構としては，地下式壙1基，火葬土坑2基，粘土貼り土坑2基，土坑1基が検出された。

地下式壙は，北東斜面から検出され，大形である。遺物は，土師質土器内耳鍋片1点が出土している。隣接した場所に火葬土坑が位置していることもあり，さらに，J区には，中世の墓域と思われる遺構が検出されていることから，貯蔵庫ではなく，埋葬にかかわる施設と考えられる。

火葬土坑は，中央部から2基が対で検出された。いずれも骨片，多量の焼土，炭化材が出土している。人骨が出土した土坑は確認されていないが，J区で墓壙群が検出されていることから，何らかの関連があるものと考えられる。

粘土貼り土坑は，地下式壙に隣接した場所から2基が対で検出された。遺物は陶磁器片（香炉，菊皿，碗）が出土している。骨片等は出土していないが，出土遺物が副葬品と考えられるため近世の墓壙とした。平成4年度に調査したA区，5年度に調査したC区からも対になる粘土貼り土坑が検出され，報告書では，家族または親族単位の墓であった可能性が考えられるとしている[3]。

註

(1) 茨城県教育財団「伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書２　前田村遺跡Ｃ・Ｄ・Ｅ区」『茨城県教育財団文化財調査報告第116集』1997年３月

参考文献

・ 茨城県教育財団「伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書１　西ノ脇遺跡　前田村遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第87集』1994年３月

・ 茨城県教育財団「伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書３　高野台遺跡　前田村遺跡Ｄ・Ｆ区」『茨城県教育財団文化財調査報告第127集』1998年３月

・ 茨城県教育財団「(仮称)葛城地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」『茨城県教育財団文化財調査報告第121集』1997年３月

・ 茨城県教育財団「茨城中央工業団地造成工事地内埋蔵文化財調査報告書　南小割遺跡　権現堂遺跡　親塚古墳　後原遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第129集』1998年３月

・ 茨城県教育財団「北浦複合団地造成事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ　炭焼遺跡　札場古墳群　三和貝塚成田古墳群」『茨城県教育財団文化財調査報告第130集』1998年３月

・ 笹生　衛「東国における中世墓地の諸相―房総の事例を中心に―」『研究紀要16―20周年記念論集―』千葉県文化財センター　1995年１月

第４章　　前田村遺跡の変遷

前田村遺跡は，平成４年度から５年間にわたり発掘調査が行われた。調査面積は約140,000㎡に及んでいる。調査の結果，当遺跡は縄文時代前期から中・近世に至る複合遺跡で，長い間，人々の生活の場であったことが明らかになってきた。検出された遺構は縄文時代の竪穴住居跡410軒（前期７軒，中期302軒，後期47軒，晩期８軒，不明46軒），古墳時代の竪穴住居跡43軒（前期26軒，後期17軒），平安時代の竪穴住居跡26軒，土坑約3,500基，地下式壙47基，井戸37基，溝198条である。それに伴う遺物の量も遺物収納コンテナ（60×40×20㎝）に2,000箱以上と膨大な量である。これらの遺物の中には完形も多く，特に当遺跡の中心となる縄文時代中期の遺物は，当時の文化を考える上で県内屈指の好資料である。

ここでは，時期ごとに概要を述べ，主な遺構と遺物を掲載することによって，全体のまとめとしたい。

旧石器～縄文時代前期（第345・346図）

旧石器時代のものとして，Ｂ区南部から石器類集中地点１か所が確認されている。そこからはナイフ形石器，尖頭器，剥片などが出土している。また，Ｊ区から表面採集資料としてナイフ形石器（頁岩）が１点出土している。

縄文時代前期の遺構としては，竪穴住居跡と土坑が台地西部のＫ区に分布している。遺物は，縄文時代前期前葉の二ツ木式期と前期後葉の諸磯ｂ式期，浮島Ⅰ・Ⅱ式期の土器片が出土している。いずれも小片であり，図示できるものは少ない。

縄文時代中期（第347～358図）

中期の中でも阿玉台Ⅰａ式期以前の遺構は，未確認である。この時期の遺構は，阿玉台Ⅰｂ式期以降でⅡ・Ⅲ・Ⅳ式期と徐々に増加する。竪穴住居跡や土坑は，台地の中央部のＤ・Ｈ区を中心に分布している。遺物は阿玉台Ⅳ式期のものが多く，勝坂式期や中峠式期の土器も見られるようになる。

中峠式期は，阿玉台Ⅳ式期から加曽利ＥⅠ式期にかけて重複する時期である。竪穴住居跡は，中央部のＣ・Ｄ・Ｇ区に分布している。Ｇ区では住居跡が環状に巡ることから，環状集落が存在していたと考えられる。土器は口縁部文様帯が重厚な阿玉台式の様相を持つもの，キザミを持つ隆帯が貼付されているなど勝坂式の様相を多く持つ土器が多い。また把手は１ないし２単位で，連続コの字状文が加えられた土器も多い。また，勝坂式系や大木式系の様相を持つ土器も見られることから，人々の交流が広範囲なものであったことをうかがわせる。

加曽利Ｅ式期の遺構は，当遺跡内に広く分布している。分布の中心は台地中央部のＣ・Ｄ・Ｈ区であるが加曽利ＥⅡ式期からＥⅢ式期にかけては，遺構が東部と南部に広がりを見せる。この時期はＤ区において竪穴住居跡が窪地を囲んで環状に点在する様相が顕著にみられる。また，Ｇ区では加曽利ＥⅠ式期の竪穴住居跡が中央の広場を中心に環状に分布し，加曽利ＥⅡ式期になると南東部を広場として環状に分布している。このことは集落が移動したことを示している。

第76･208号住居跡は，壁溝を有するという特徴を持つ。また土坑の形態は，阿玉台Ⅲ式期から加曽利ＥⅠ式期にかけては袋状の土坑が大半で，加曽利ＥⅠ式期から加曽利ＥⅣ式期には円形，あるいは円筒状のものが多くなる傾向がみられる[1]。

土器の胎土は，加曽利ＥⅠ式期以前と加曽利ＥⅡ式期以降では様相が異なる。阿玉台式期から加曽利ＥⅠ式期にかけては，石英・長石・雲母を多く含む暗褐色の土器が多いのに対し，加曽利ＥⅡ式期以降は細粒になり，褐色を呈するものが多い[2]。

D区の第1158号土坑からは，成年～壮年男子と思われる人骨が頭部に土器を被せられた状態で出土している。埋葬された時期は，出土した遺物から加曽利ＥⅠ～ＥⅡ式期と考えられる。また，Ｈ区の第2463号土坑からも，ほぼ１体分の成年女子の人骨が出土している。人骨にともなう遺物が検出されなかったので，詳細な時期は不明であるが，周辺の土坑との関係から中期であることは間違いない[3]。

縄文時代後期（第359～366図）

称名寺式期及び堀之内式期の遺構は，加曽利Ｅ式期に比べ少ない。さらに中葉の加曽利Ｂ式期の遺構となるとわずかである。遺物は，表面採集を含めてもその数は極端に少ない。そういう意味でも，Ｇ区の第475号住居跡の出土遺物は，数少ない良好な資料である。生活の拠点はやはり，Ｃ・Ｄ・Ｈ区の北側の低湿地を望む高台である。

安行１・２式期の遺構は，加曽利Ｂ式期の遺構よりは多く確認できる。生活拠点は，中期よりもわずかに南側に移るようで，台地の北側に位置するＣ区の縁辺部には確認できない。Ⅰ区の第463号住居跡からは，安行１・２式期のミミズク形土偶が良好な状態で出土している。

縄文時代晩期（第367・368図）

安行１・２式期から安行３ａ・３ｂ式期までは，生活拠点の移動はないようであるが遺構数は少ない。当遺跡で，縄文時代の遺構として確認されるのは安行３ｂ式期が最後である。表面採集を含めても安行３ｃ式期以後，弥生時代を含めた古墳時代前期前葉までの遺構・遺物は確認されていない。

古墳時代前期（第369・370図）

生活の拠点は，縄文時代の拠点であった台地中央部よりやや西側となる。検出された住居跡には時間差がみられ，Ⅰ期，Ⅱ期に細分することができる。

Ⅰ期の住居跡は，Ｈ区北部に位置し10軒が検出されている。出土遺物は，器台・台付甕・元屋敷系の高坏などである。

Ⅱ期の住居跡は，Ｊ区中央部と南西方向に広がる低湿地を見下ろす南側斜面に位置し，16軒が検出されている。第519号住居跡や第545号住居跡からは良好な状態の遺物が出土している。これらの遺物を観察すると，

○　有段口縁を持つ壺や棒状浮文を有する壺が終末の様相を呈する。

○　台付甕や元屋敷型の高坏は見られず，柱状の脚を持つ高坏が見られる。

○　ハケとミガキによる調整である。

などの特徴が見られる。これら２軒の住居跡は，いずれも前期後葉と考えられる。これらの特徴は，Ⅰ期とする住居跡の特徴とは明らかに異なる。その他の南部に存在する住居跡の遺物も第519・545号住居跡と同様な特徴が見られることから，集落が北部から南部へ移ったと考えられる。

古墳時代後期（第371・372図）

台地の南東部のＦ区から６世紀前葉の住居跡が４軒，西部のＪ区から６世紀後葉～７世紀前葉の住居跡12軒が確認された。

Ｆ区の４軒は，いずれも一辺が６・７ｍの方形で，北壁に竈を持つ住居跡である。遺物のほとんどが土師器で，坏・高坏・甕・甑・台付甕等である。第313号住居跡からは，台付甕が出土している。この時期の台付甕は，群馬や埼玉には見られるが，県内での出土は希である。また，第314号住居跡からは須恵器の甕が１点出土している。

Ｊ区においては，一辺が７ｍ前後の方形の住居跡が点在している。これらの住居跡は，重複はなく，主軸方向に同一性が認められる。また，遺物からも同時期性が認められる。第514号住居跡出土の須恵器高坏は，ＴＫ

－209窯式期のものと思われ，7世紀初頭と考えられる。J区において出土した須恵器は，この1点のみである。この時期以降，平安時代初頭までの遺構・遺物は確認されない。

平安時代（第373・374図）

住居跡は，台地の中央部から南端部の傾斜地まで分布している。住居跡の規模は，一辺が3・4mのものが主である。竈は北壁，または東壁に位置し，掘り込みも浅く小型である。1軒あたりの遺物の出土量も少なく，坏が2・3点，それに甕が加わる程度である。第510号住居跡から，墨書土器が1点出土している。いずれの住居跡も出土遺物から，9世紀後葉～10世紀中葉の時期と考えられる。

G区の第1983号土坑からは，和鏡が小刀と思われる破片とともに出土している。時期は11～12世紀と考えられる。

中世（第375・376図）

当遺跡の中世は，館の存在が考えられる時期（前期）と墓域として存在していた時期（後期）とに大きく二分される。

はじめに館の存在が考えられる時期について記述する。調査区域内に集落の存在を示す痕跡は少なく，わずかにG区から掘立柱建物跡3棟，H区から小皿（13世紀前葉か）をともなう方形竪穴状遺構，第1号堀が検出されているのみである[10]。この堀からは，底部の切り離しが回転糸切りと丸底の小皿とともに4型式期[11]と考えられる常滑窯産の甕の口縁部片が出土している。これらと同時期の小皿は，第1号堀の南側に位置する第3101号土坑からも検出されている。さらに，南東側のE区からF区にかけて検出されたクランク状の第38号溝もその規模や断面形から，第1号堀と同じ性格が与えられる可能性がある。

これらの掘立柱建物跡・方形竪穴状遺構・第1号堀は，台地中央部付近に散在している。また，これらの遺構から出土した遺物は，いずれも13世紀前葉と考えられることから，館の存在が考えられる。

次に墓域として存在していた時期について記述する。当遺跡の各所から，数多くの地下式壙をはじめ，墓壙・火葬土坑・井戸・溝・土坑，I区からは墳墓が検出されている。これらの地下式壙・墓壙・火葬土坑・井戸・溝・土坑等は複雑に絡む様相が見られる。これらをまとまりとして捉えると，六つのグループ（便宜上，第1遺構群～第6遺構群とした）に分けることができる。以下，それら遺構群の特徴を記す。第395図には，地下式壙の分布を記した。

第1遺構群は，A区南部に位置する。第77・84B号土坑からは，人骨と古銭（永楽通寶・宣德通寶）が出土している。また，第84A号土坑からは人骨と五輪塔，宝篋印塔が，第96A号土坑からは人骨と五輪塔が出土している。これらを含め，明らかに墓壙と思われる土坑が周辺に密集している。地下式壙や火葬土坑はともなわないようである。

第2遺構群は，D区南部からF区の北部にかけて存在する。北側を第45号溝に，西側を第49号溝によって区画された地域にあたる。検出された地下式壙は，12基である。覆土中から土師質土器内耳鍋片が出土している。また，周辺には多数の土坑が存在している。このうち第1671号土坑から人骨が出土している。それ以外にも土坑から，陶器が数点出土している。

第3遺構群は，H区の南部に位置する。地下式壙2基とその周辺から多数の土坑が検出されている。人骨や土器等の遺物は検出されていない。

第4遺構群は，J区北部に位置する。第145・146・147号溝に地下式壙や土坑が囲まれるような様相である。検出された遺構は，地下式壙5基，土坑（墓壙・火葬土坑を含む）約150基，井戸2基である。人骨や古銭が出土している3基の土坑は，墓壙とした。形状は，いずれも100cm×80cmほどの隅丸長方形である。特に，第

3008・3025号土坑は隣接しており，時期的に近いことを示している。また，第４遺構群には径20～30cm前後のピットが土坑とともに群在している。方形竪穴状遺構は見られない。第33・34号地下式壙は重複関係にあり，また，第33号地下式壙の底面からは薬状の炭化物が出土している。その他の地下式壙からは，土師質土器内耳鍋片，常滑甕の口縁部片が出土している。土坑からは土師質土器内耳鍋片，古銭等が出土している。

第５遺構群は，Ｊ区西部に位置する。地下式壙２基，方形竪穴状遺構３軒，土坑（墓壙・火葬土坑を含む）約220基，井戸２基である。第４遺構群にあるような墓壙は見られない。土坑の形状は長方形，方形などが主である。規模は一定しないが，長軸100～120cm前後のものが多い。この地区では，火葬土坑が多く確認され，第3444・3445号土坑は隣接し，規模や形状も同様であることから，時期的に近いことが考えられる。第22号方形竪穴状遺構の床面からは灰状の遺物が，第23号方形竪穴状遺構の床面からは，土師器質の皿が出土している。地下式壙，土坑等からの出土遺物はない。

第６遺構群は，Ｊ区中央部に位置する。地下式壙６基，方形竪穴状遺構５軒，土坑(墓壙・火葬土坑を含む)約30基，井戸１基である。第40・41号地下式壙は，隣接していることや規模・形状・主軸方向から同時性が考えられる遺構である。第3278号土坑は火葬土坑で，多量の骨片と炭化材とともに，土製数珠玉３個が検出されている。第3261・3296号土坑も火葬土坑で，いずれも平面形は長方形である。第3261号土坑は，長軸７ｍ×短軸1.2ｍほどの規模で，長軸方向の両端にピット状のくぼみを持ち，ピット間がわずかに溝状に掘りくぼめられている。第3296号土坑の覆土の下位層からは，多量の炭化材が検出されている。第６遺構群も第５遺構群同様，遺物はほとんど出土していない。

これらの中世の遺構群は，その周辺で生活したの人々の墓域と考えられる。遺構に伴うかどうかの問題はあるにせよ，常滑片や比較的多く出土している内耳鍋片からは，これらの遺構群が15世紀から16世紀を中心とした時期に存在していたことが想定できよう。

近　世

近世の遺構は，Ａ区から粘土貼り遺構を中心に検出されている[4]。出土遺物は，陶磁器(皿・碗・灯明受皿)，京焼系の化粧入れ，六道銭と思われる古銭（寛永通寶），煙管等である。他の調査区からも，瀬戸・美濃系の皿や碗の破片が，表面採集されている。

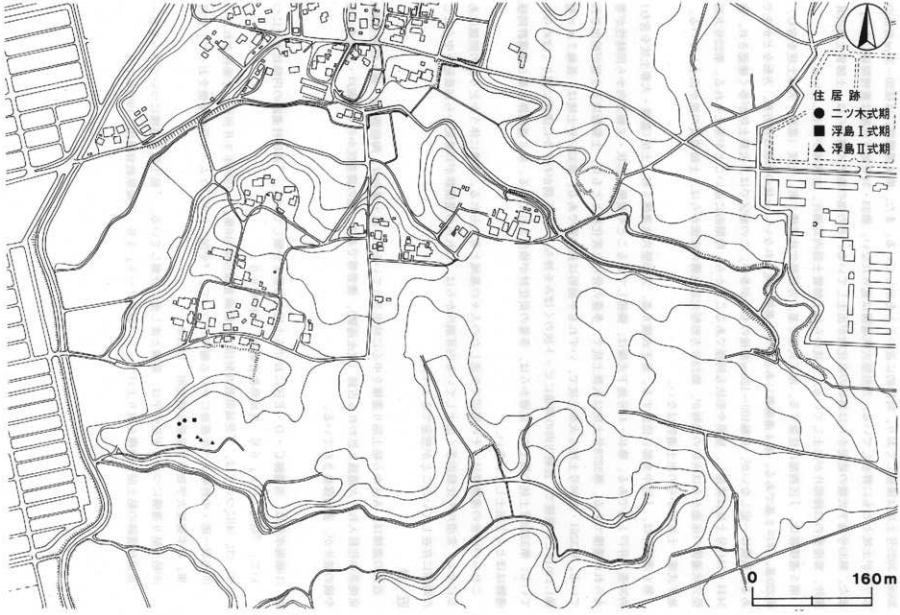
註　(1)横堀孝徳は，当遺跡Ｃ・Ｄ・Ｅ区における土坑の形態を分類している。「前田村遺跡の円筒状土坑について」『研究ノート』６号　茨城県教育財団　1997年６月

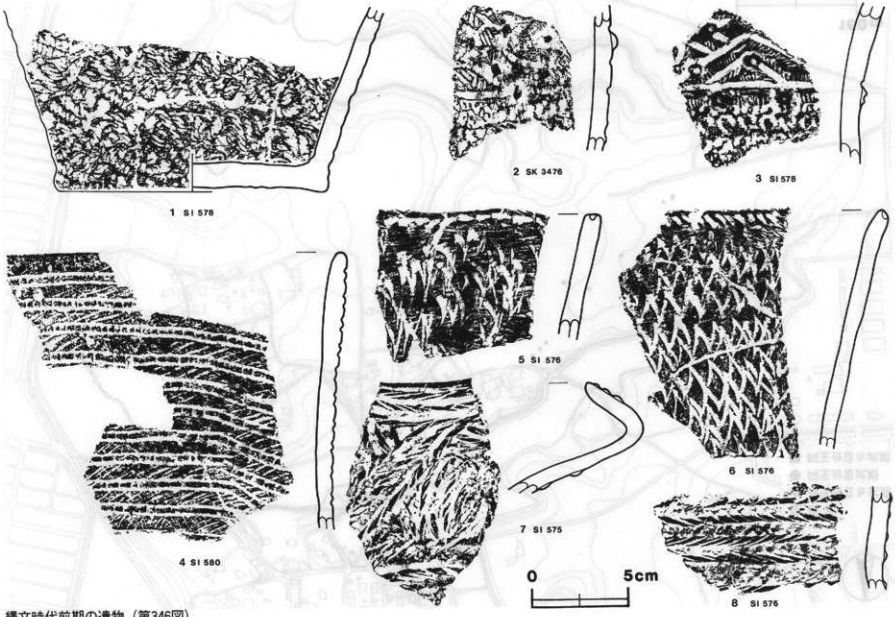
(2), (3), (4)については，『茨城県教育財団文化財調査報告第146集』－1999年３月刊行－を参照されたい。

(5)赤羽一郎・中野晴久「生産地における編年について」『全国シンポジウム「中世常滑焼をおって」資料集』日本福祉大学知多半島総合研究所　1994年

(6)粘土貼り遺構について吉原作平は，墓壙と流し溜に分類している。「粘土貼り墓壙についての一考察―前田村遺跡の粘土貼り遺構を取り上げて―」『研究ノート』３号　茨城県教育財団　1993年７月

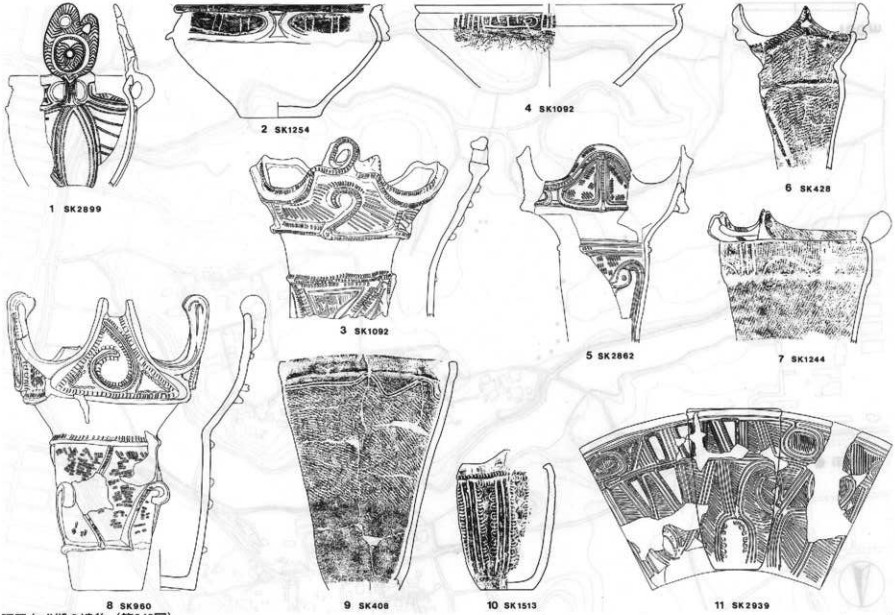
Ⅰ　縄文時代前期（第345図）





縄文時代前期の遺物（第346図）

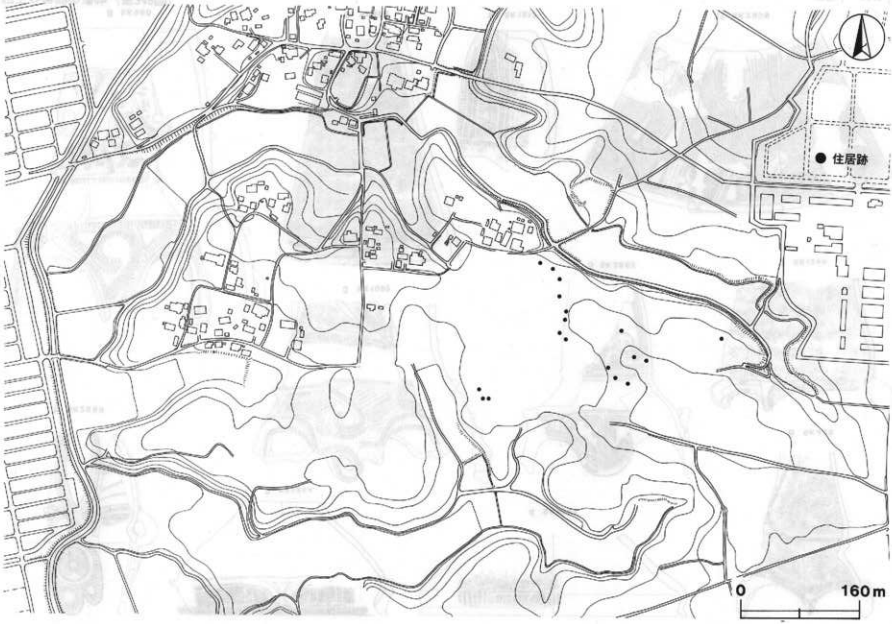
Ⅱ　縄文時代中期　(1)阿玉台式期（第347図）

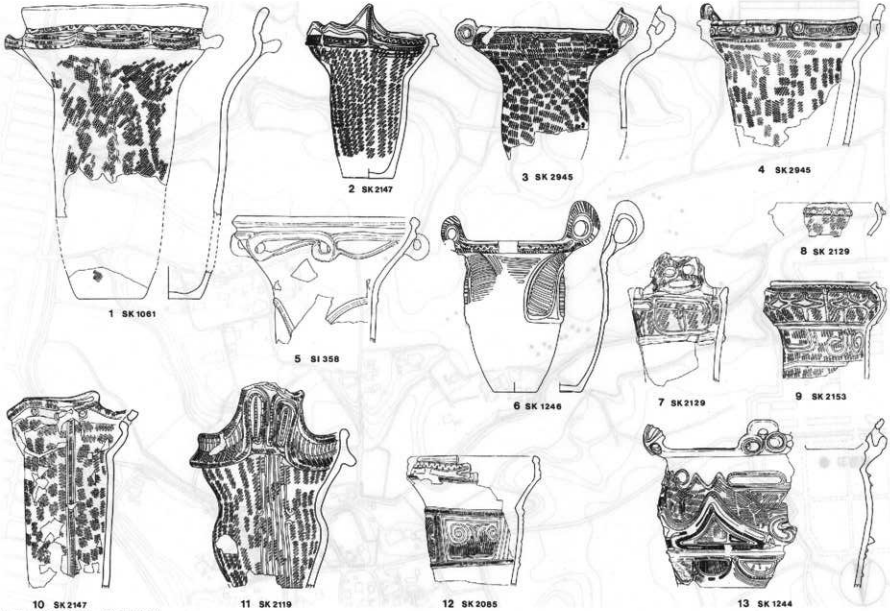


阿玉台式期の遺物（第348図）

縮尺$\frac{1}{4}$，11は$\frac{1}{3}$

(2)中峠式期（第349図）

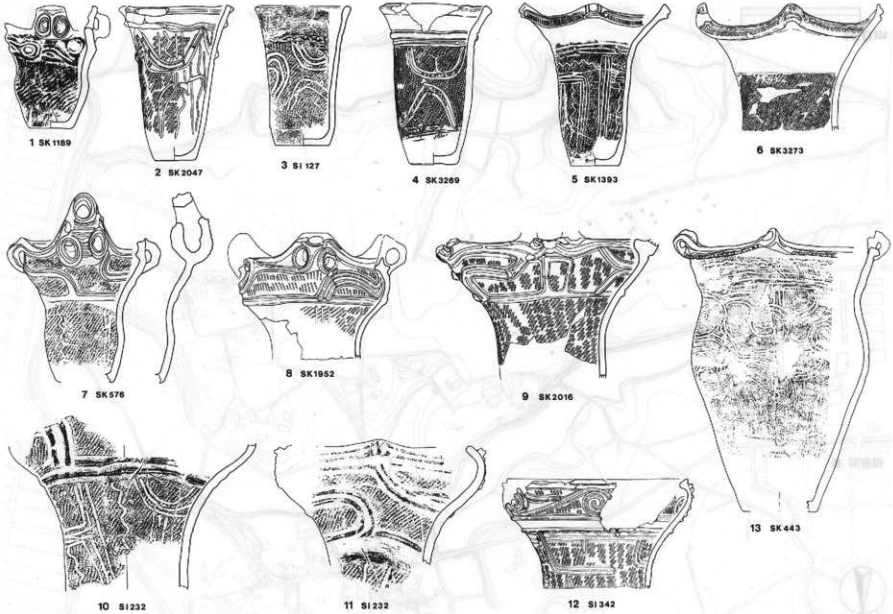




中峠式期の遺物（第350図）

縮尺$\frac{1}{4}$，6・7・12は$\frac{1}{3}$，13は$\frac{1}{10}$

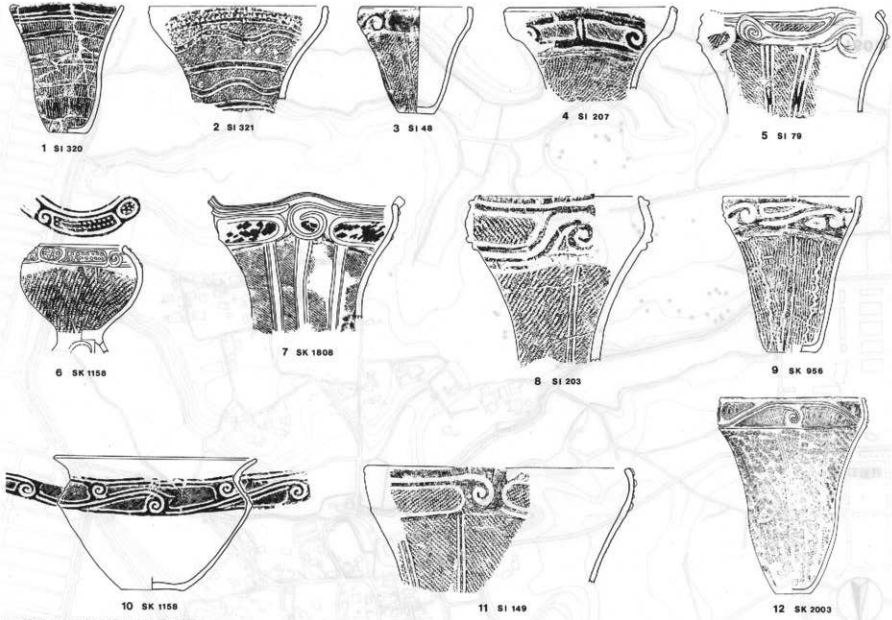
(3)加曽利E Ⅰ式期（第351図）



加曽利E Ⅰ式期の遺物（第352図）

縮尺$\frac{1}{4}$，5・13は$\frac{1}{8}$

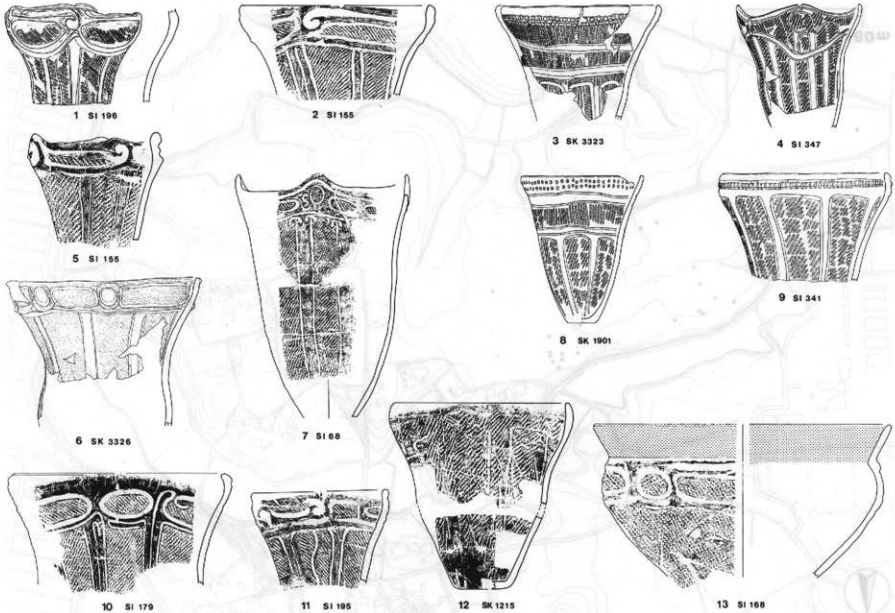
(4)加曽利EⅡ式期（第353図）



加曾利ＥⅡ式期の遺物（第354図）

縮尺$\frac{1}{5}$，7・10は$\frac{1}{4}$，12は$\frac{1}{10}$

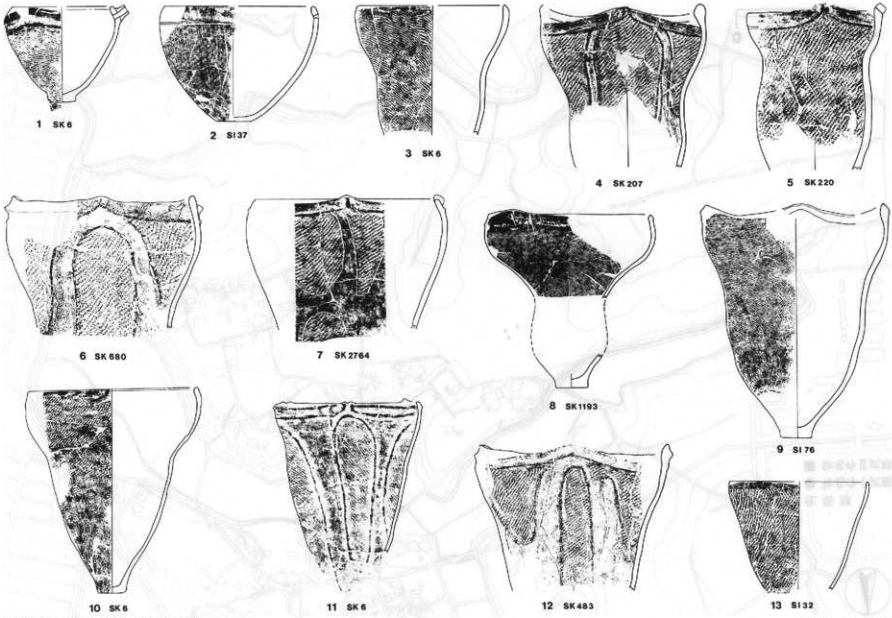
(5)加曽利ＥⅢ式期（第355図）



加曽利E Ⅲ式期の遺物（第356図）

縮尺$\frac{1}{6}$，7・8は$\frac{1}{4}$

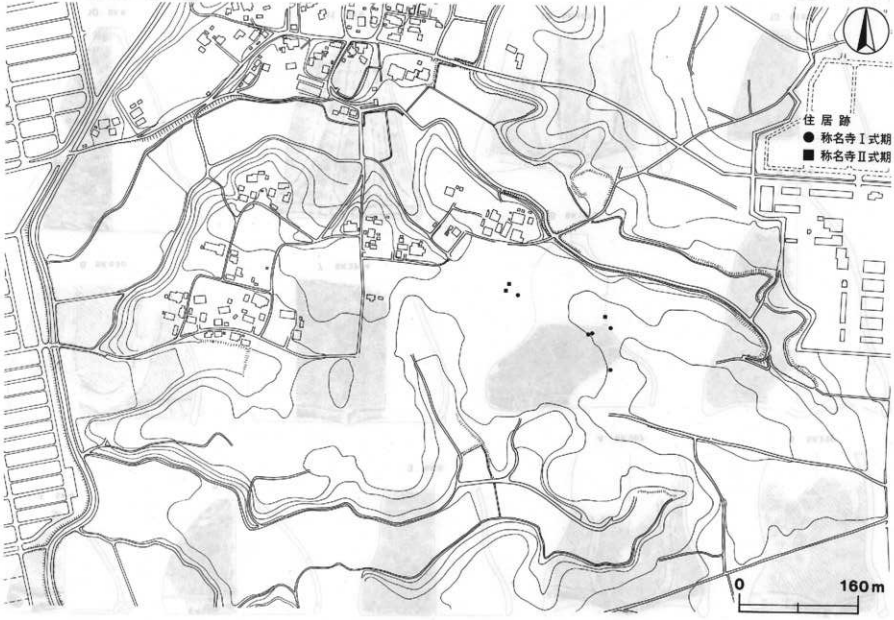
(6)加曽利ＥⅣ式期（第357図）

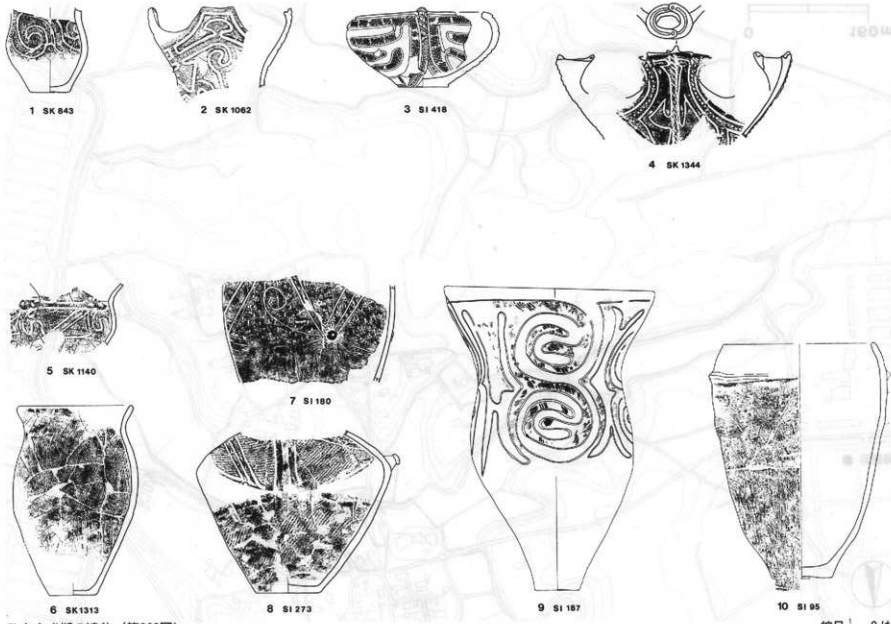


加曽利EⅣ式期の遺物（第358図）

縮尺$\frac{1}{4}$，6・8は$\frac{1}{8}$

Ⅲ　縄文時代後期　(1)称名寺式期（第359図）

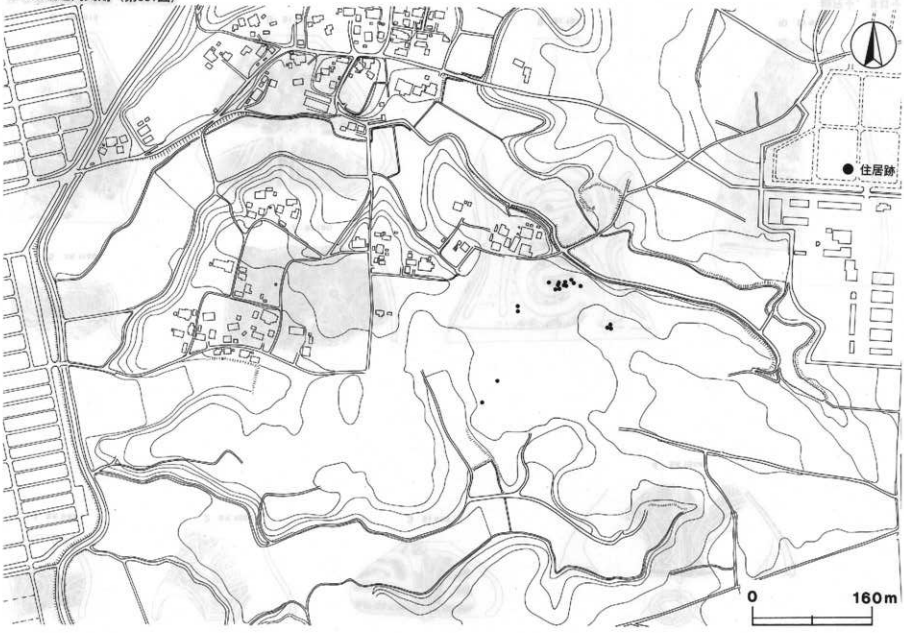


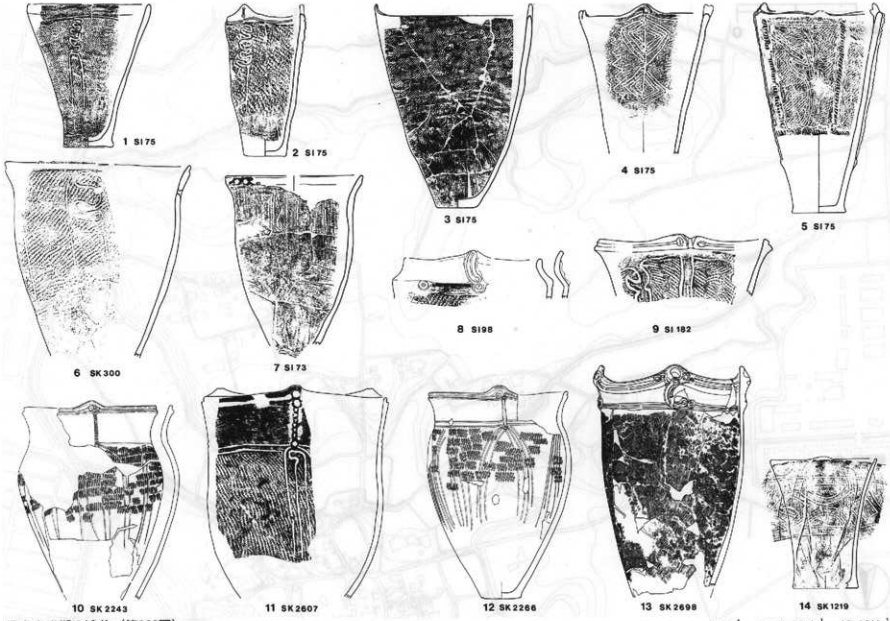


称名寺式期の遺物（第360図）

縮尺$\frac{1}{4}$，9は$\frac{1}{8}$

(2)堀之内式期（第361図）

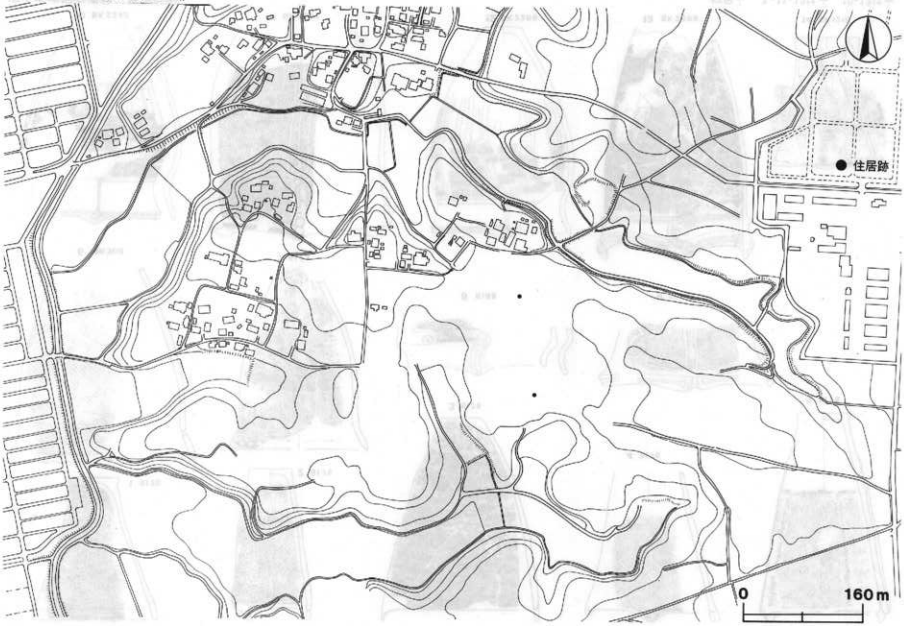


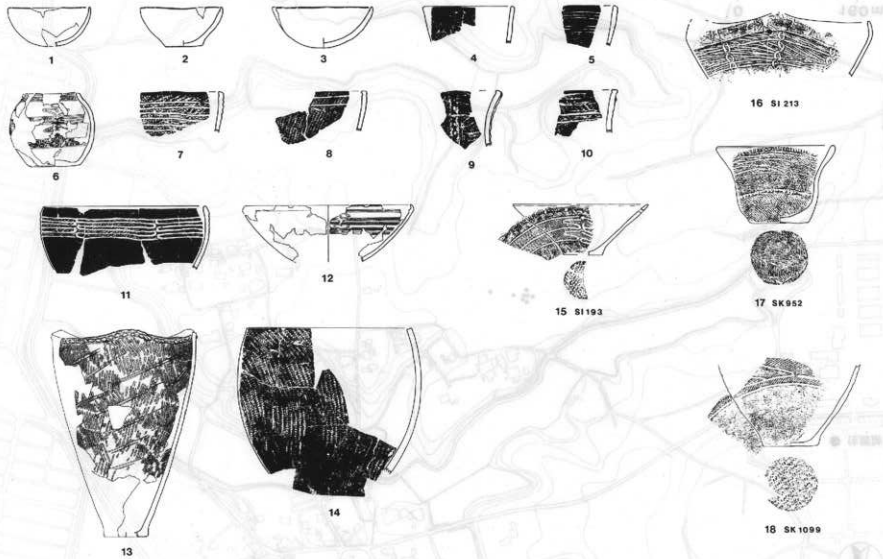


堀之内式期の遺物（第362図）

縮尺$\frac{1}{4}$，3・11・13は$\frac{1}{3}$，10・12は$\frac{1}{12}$

(3)加曽利B式期（第363図）

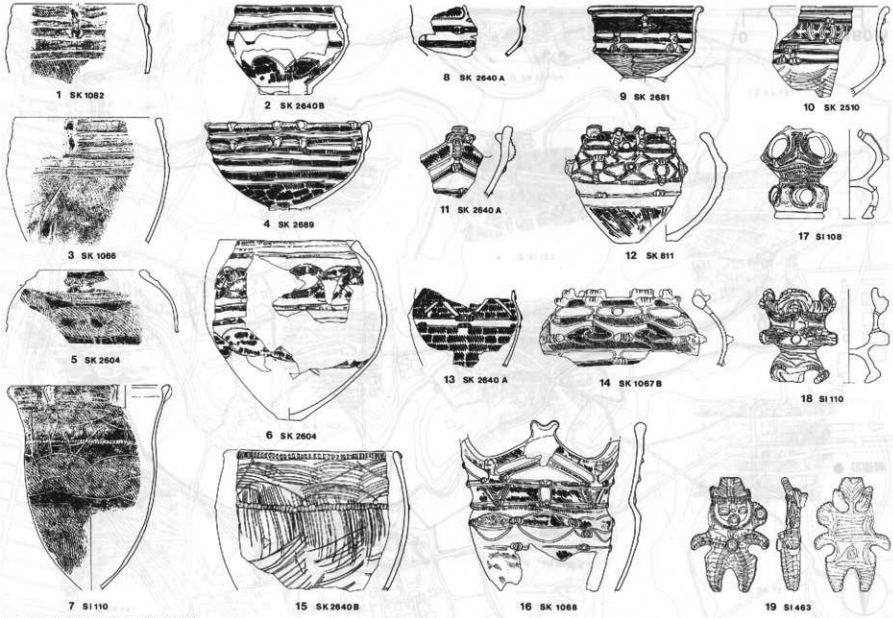




加曽利B式期の遺物（第364図）

縮尺 $\frac{1}{4}$

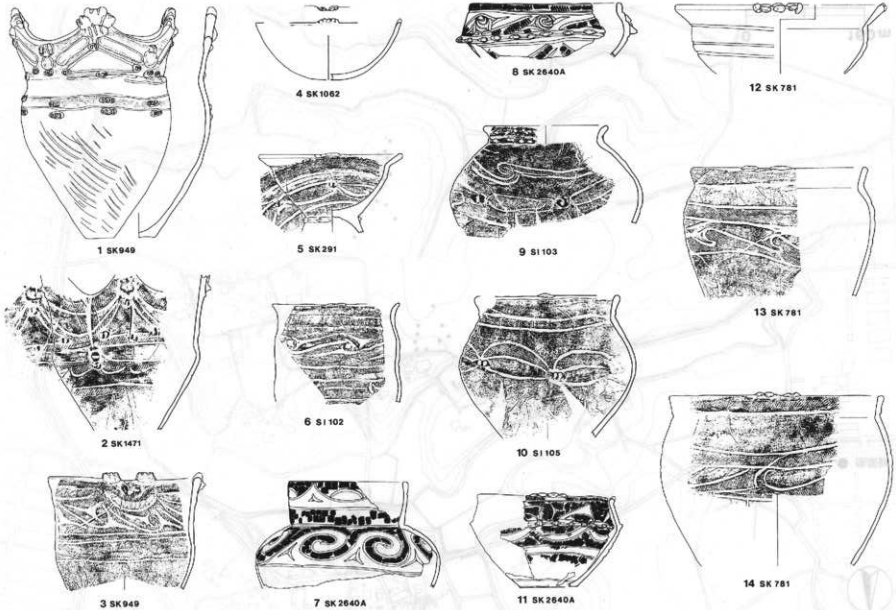
(4)安行1・2式期（第365図）



安行1・2式期の遺物（第366図）

縮尺$\frac{1}{4}$，18は$\frac{1}{3}$，19は$\frac{1}{5}$

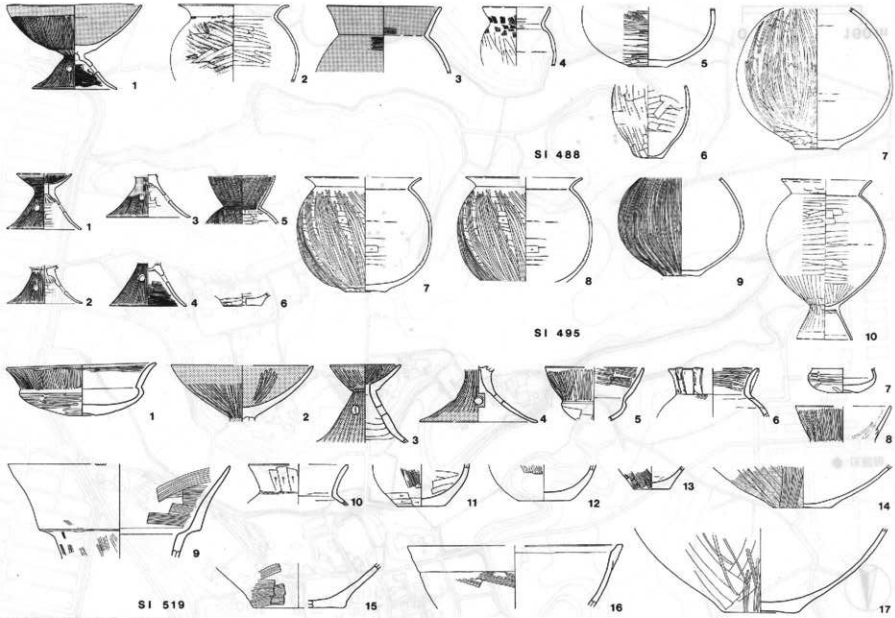
Ⅳ　縄文時代晩期　安行３ａ・３ｂ式期（第367図）



安行３ａ・３ｂ式期の遺物（第368図）

縮尺$\frac{1}{4}$

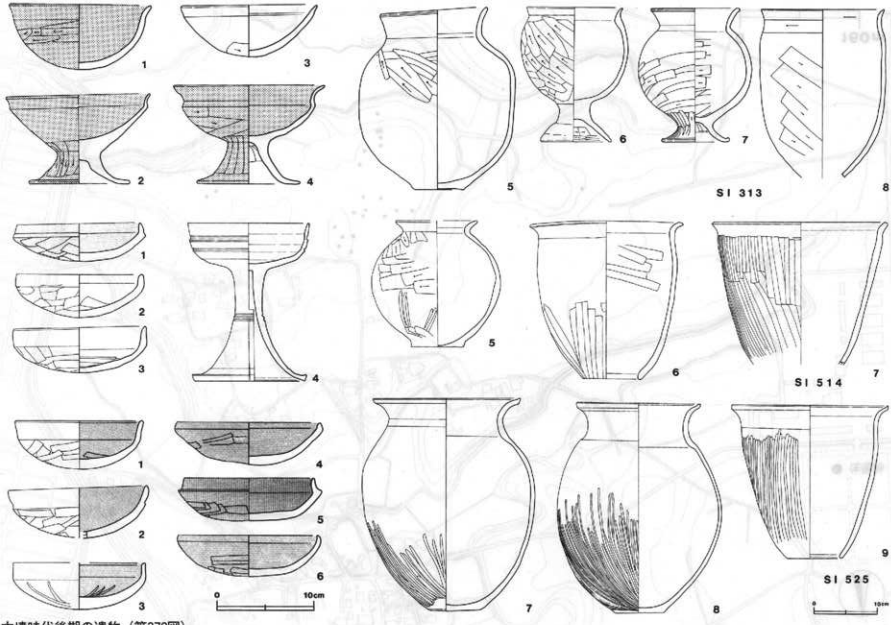
V　古墳時代前期（第369図）



古墳時代前期の遺物（第370図）

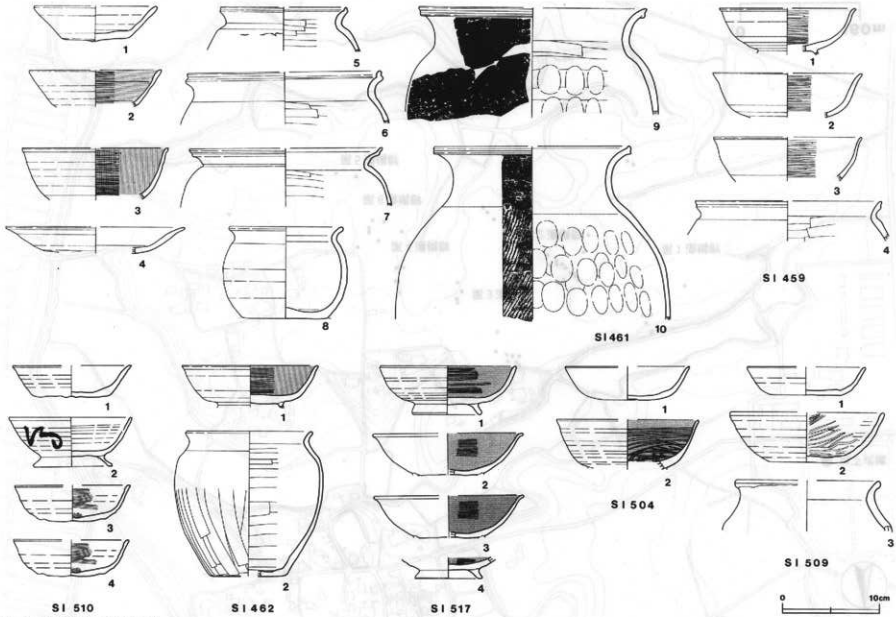
縮尺 $\frac{1}{4}$

Ⅵ　古墳時代後期（第371図）



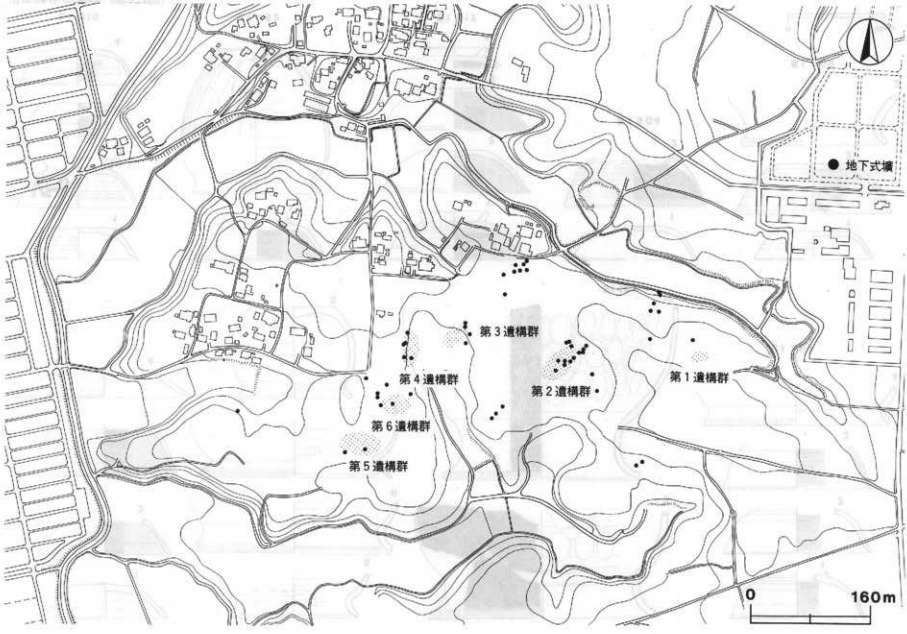
古墳時代後期の遺物（第372図）

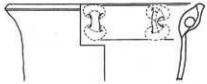
Ⅶ　平安時代（第373図）



平安時代の遺物（第374図）

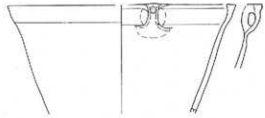
Ⅷ　中世（第375図）



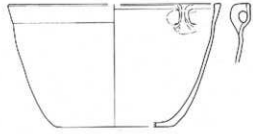


1

第８号地下式壙

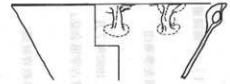


1



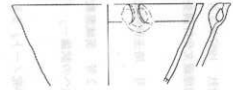
2

第36号地下式壙



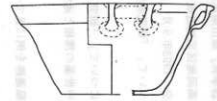
1

第20号地下式壙



1

第33号地下式壙

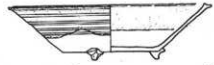


1

第21号地下式壙

1

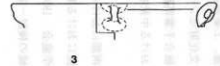
第20号地下式壙



1

第15号地下式壙

2



3

4

0　20cm

地下式壙出土遺物（第376図）

参考文献

・大川　清，鈴木公雄，工楽善通編『日本土器事典』雄山閣出版株式会社　1997年３月

・財団法人印旛郡市文化財センター「佐倉市高岡地区宅地造成予定地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅰ）」『高岡遺跡群Ⅰ』生活協同組合千葉県勤労者住宅協会　1993年９月

・浅野晴樹「関東における中世在地産土器について」『研究紀要』第４号　埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1988年１月

・櫻村宣行「茨城県南部における鬼高式土器について」『研究ノート』２号　茨城県教育財団　1992年７月

・桃崎祐輔「中世常陸における葬送の風景－中世墓の諸相と通史的叙述への試論－」『茨城県考古学協会誌』第７号茨城県考古学協会　1995年８月

・吉原作平「中世墓域の検討－谷和原村西ノ脇遺跡を例に見て－」『研究ノート』５号　茨城県教育財団　1996年６月

・白田正子「茨城県における中世末から近世にかけての土師質内耳土器について―つくば市古屋敷遺跡の出土例を中心にして―」『研究ノート』７号　茨城県教育財団　1998年６月

付　　章

前田村Ｊ・Ｋ区出土の人骨について

国立歴史民俗博物館　西本豊弘

前田村Ｊ・Ｋ区から出土した骨は大部分が焼けた人骨であった。よく焼けているため小さな破片になっており，人骨かどうか分からないものもあった。それらにはヒト？と記載した。頭蓋骨や歯や四肢骨が認められ，人骨と確認されたものもある。出土内容の記載で，部位の記載がなくヒトとしたものは，四肢骨の内面や骨質からヒトと判断したものである。

さて，焼けた人骨のうち，土坑3278号出土のものは，頭蓋骨・左側上下顎骨・大腿骨・椎骨・指骨が認められた。歯はすべて焼失しており，年齢は成人としか言いようがない。また，土坑3429号出土人骨では，尺骨または橈骨の中間部破片が認められた。

焼けていない人骨は，土坑3246号と3275号から出土した２体である。土坑3246号人骨は，切歯と犬歯合わせて７個分と臼歯10個分があり，それらの歯冠部のエナメル質はかなり摩耗していた。また，いくつかの歯の表面には，齲歯と思われる穴が見られた。これらの状況から老年と判断した。土坑3275号人骨では，８個分の歯を確認したが，それらは象牙質とセメント質が消失しており，歯冠部分しか残っていなかった。このことから，この人骨は焼けていないと判断した。以上の人骨の年代については，土坑の出土状態と焼骨が多いことから中世のものと推測される。

〈出土内容〉

Ｊ区

ＳＫ3104	焼骨極少量。ヒトではない？
ＳＫ3140	ヒト焼骨少量。
ＳＫ3175	焼骨極少量。ヒトではない。
ＳＫ3246	ヒト老人歯17個分。焼けていない。齲歯あり。
ＳＫ3275	ヒト成人臼歯８個分。焼けていない。
ＳＫ3278	ヒト焼骨少量。頭蓋骨・上下顎骨・四肢骨・椎骨・指骨あり。成人。
ＳＫ3403	ヒト？焼骨少量。
ＳＫ3412	炭化物少量。
ＳＫ3419	ヒト焼骨少量。
ＳＫ3424	ヒト焼骨少量。
ＳＫ3428	ヒト？焼骨少量。
ＳＫ3429	ヒト焼骨少量。四肢骨あり。成人。
ＳＫ3444	ヒト焼骨少量。
ＳＫ3445	ヒト？焼骨少量。
ＳＫ3450	ヒト焼骨少量。

ＳＫ3458　ヒト？焼骨少量。

ＳＫ3493　ヒト？焼骨少量。

Ｋ区

ＳＫ3484　焼骨極少量。

ＳＫ3485-1　ヒト？焼骨少量。頭蓋骨片あり。

ＳＫ3485-2　ヒト焼骨少量。頬骨？破片あり。

写　真　図　版

第５遺構群（東から）

第33・34号地下式壙

第33・34号地下式壙土層断面

第3008号土坑遺物出土状況

第3296号土坑土層断面

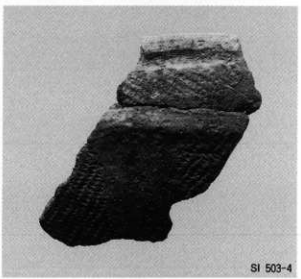
第3278号土坑遺物出土状況

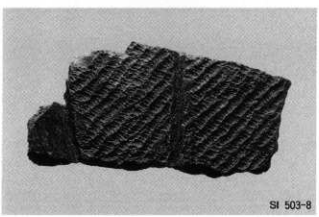
第3278号土坑遺物出土状況

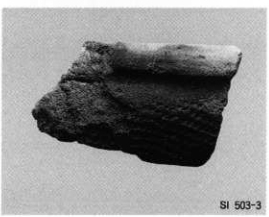
第3444号土坑土層断面

第47号地下式壙

前田村遺跡Ｊ区遠景（南東から）

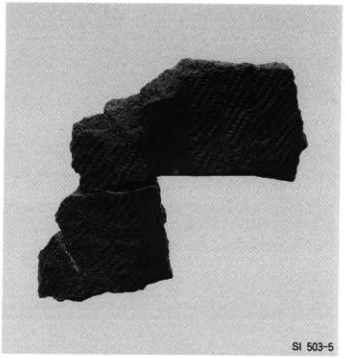




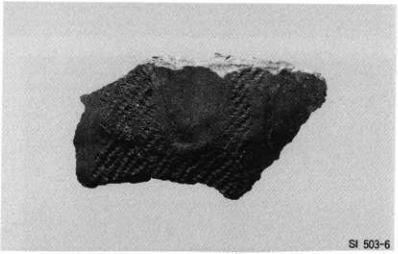


第503号住居跡遺物出土状況・出土遺物(1)

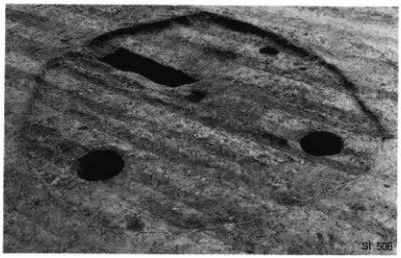
SI 503-2



SI 503-5

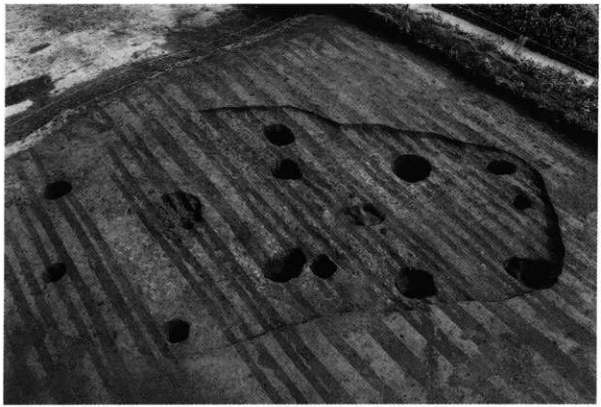


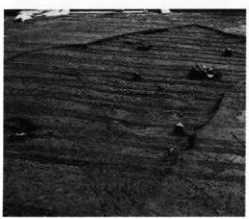
SI 503-6



SI 506

第503号住居跡出土遺物(2)，第506号住居跡





第507・508号住居跡・遺物出土状況・出土遺物(1)

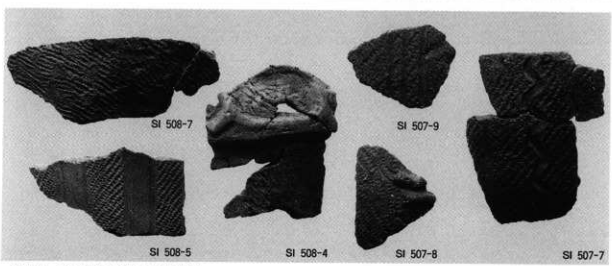
SI 507-1

SI 507-4

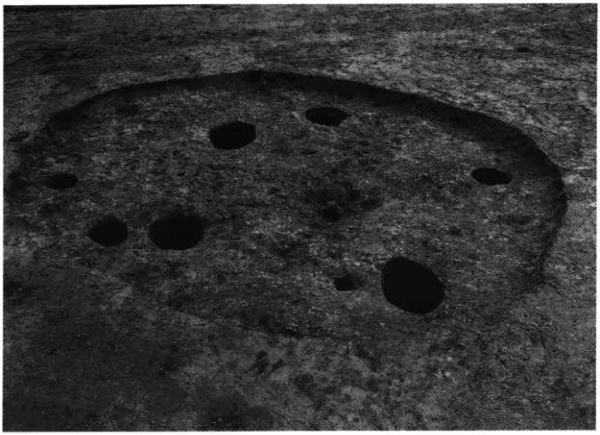
SI 507-2

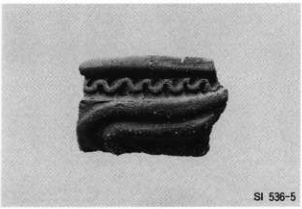
SI 508-1

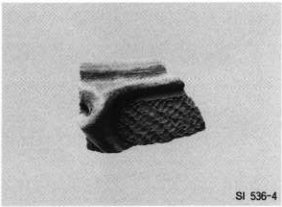
SI 507-5



第507・508号住居跡出土遺物(2)



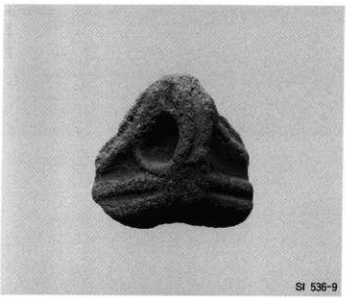




第536号住居跡・出土遺物(1)

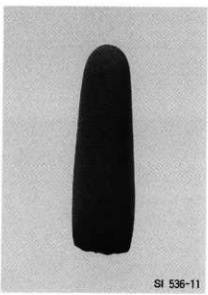
SI 536-3

SI 536-10

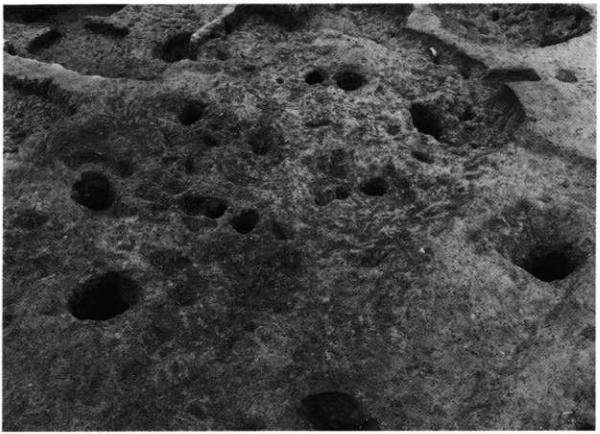

SI 536-9

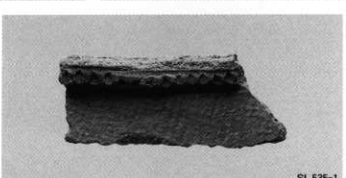
SI 536-8

SI 536-2

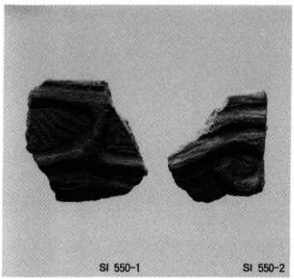

SI 536-11

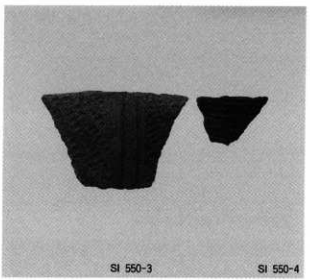
第536号住居跡出土遺物(2)

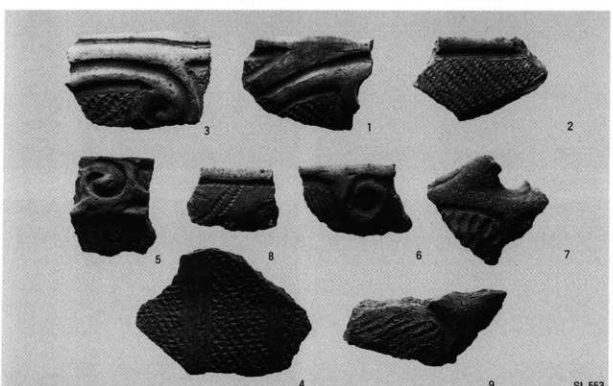




第524号住居跡，第524・535号住居跡出土遺物







第550・553号住居跡出土遺物

第2986号土坑遺物出土状況

第2990号土坑

第2990号土坑土層断面

第2991号土坑

第2994号土坑

第2995・2996号土坑

第2997号土坑

第2998号土坑

第3001号土坑

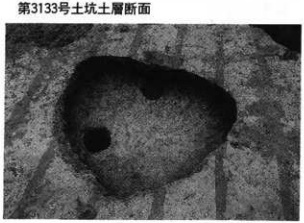
第3131号土坑

第3131号土坑土層断面

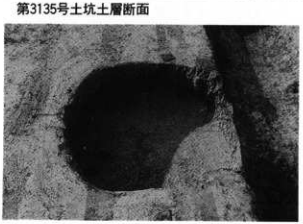
第3133号土坑遺物出土状況

第3133号土坑土層断面

第3135号土坑土層断面



第3237号土坑



第3248号土坑

第3250号土坑

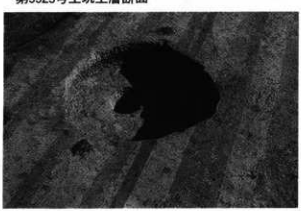
第3269号土坑遺物出土状況

第3273号土坑遺物出土状況

第3316号土坑

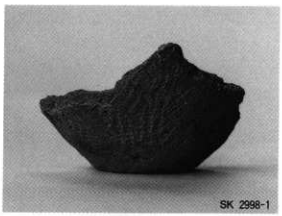
第3323号土坑土層断面

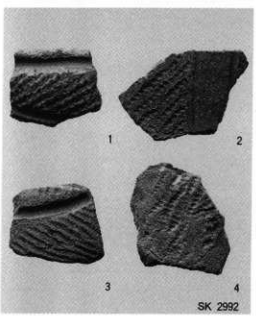
第3323号土坑

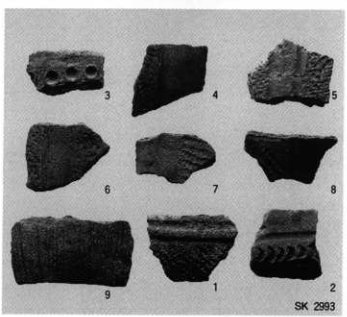


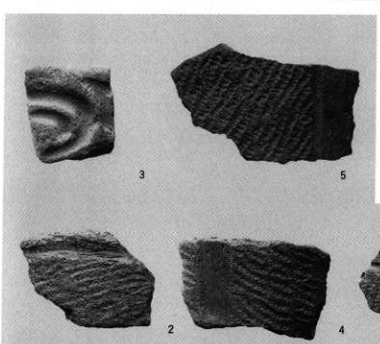
第3325号土坑

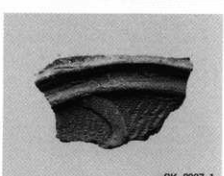
第3389号土坑遺物出土状況



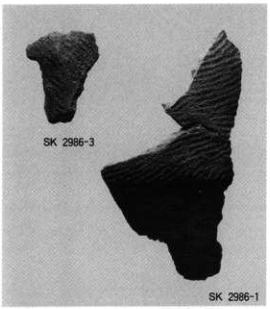


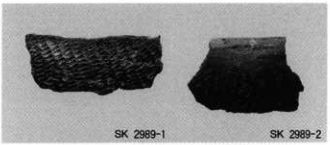


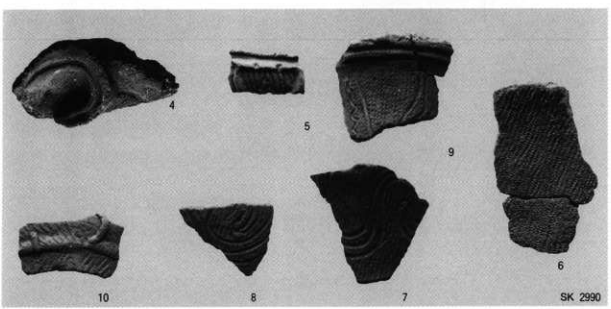




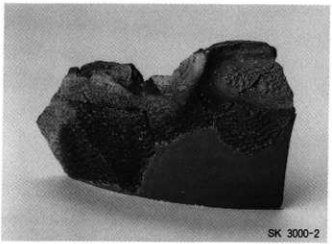
第2991・2992・2993・2997・2998号土坑出土遺物



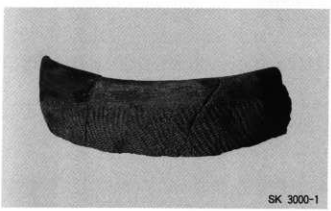




第2986・2989・2990号土坑出土遺物

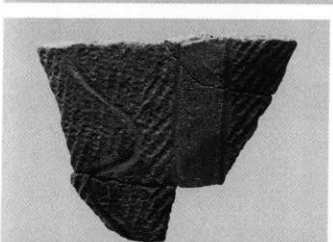

SK 3000-2

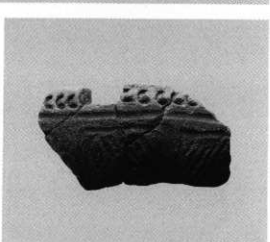
SK 3000-3


SK 3000-1

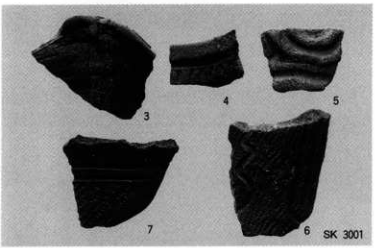
SK 3000-7

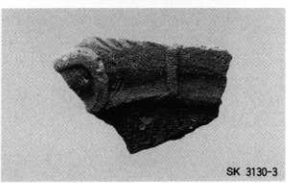
SK 3000-4 SK 3000-5 SK 3000-6


SK 3000-9


SK 3000-8

第3000号土坑出土遺物

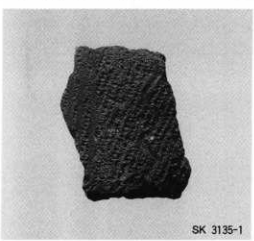




第3001・3130・3133号土坑出土遺物

SK 3131-2

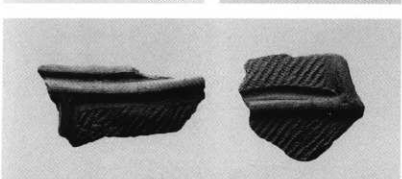
SK 3273-1


SK 3135-1

SK 3237-2

SK 3237-3

SK 3131-1


SK 3248-1 SK 3248-2

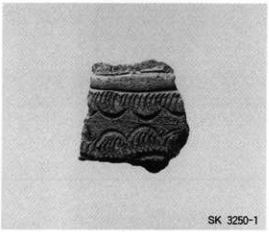
SK 3237-1

第3131・3135・3237・3248・3273号土坑出土遺物

SK 3269-1

SK 3269-3

SK 3323-2

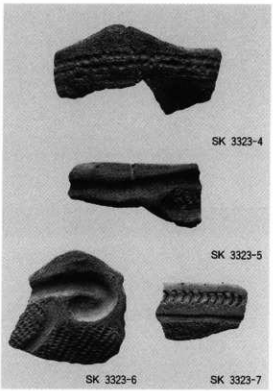

SK 3250-1

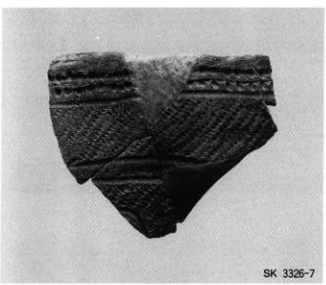
SK 3269-2

SK 3269-4

第3250・3269・3323号土坑出土遺物

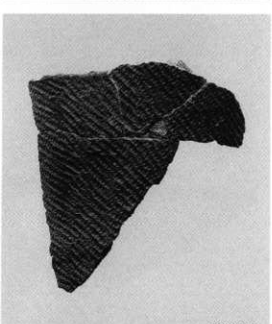
SK 3323-1


SK 3323-4
SK 3323-5
SK 3323-6
SK 3323-7


SK 3326-7

SK 3323-3

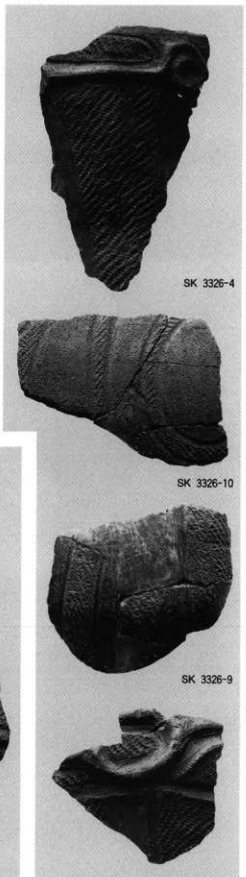
SK 3326-1


SK 3325-1

第3323・3325・3326号土坑出土遺物

SK 3326-2

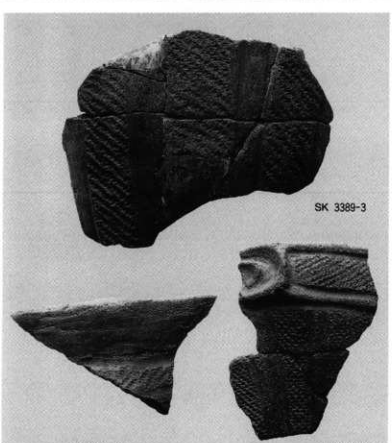
SK 3326-3


SK 3326-4

SK 3326-10

SK 3326-9

SK 3326-5

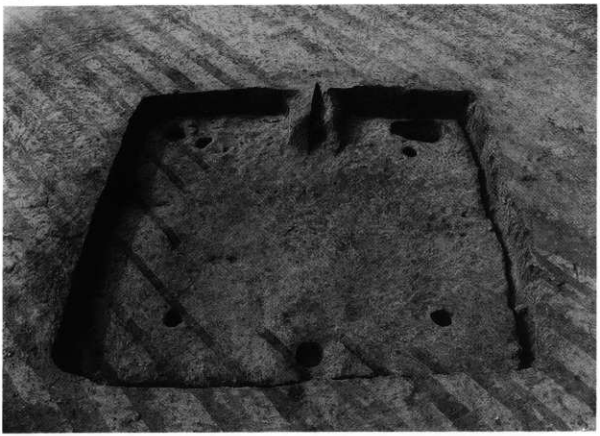

SK 3389-3

SK 3389-2

SK 3389-1

第3326・3389号土坑出土遺物

第511号住居跡・出土遺物



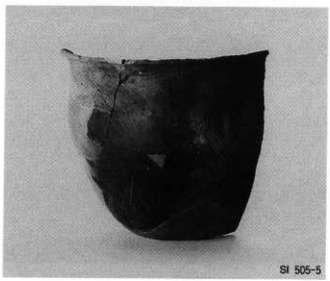
SI 505-2

SI 505-1

第505号住居跡・竈土層断面・出土遺物(1)

SI 505-4

SI 505-3


SI 505-5

第505号住居跡出土遺物(2)，第513号住居跡

第514号住居跡・遺物出土状況(1)・竈土層断面

第514号住居跡遺物出土状況(2)・出土遺物(1)

SI 514-9

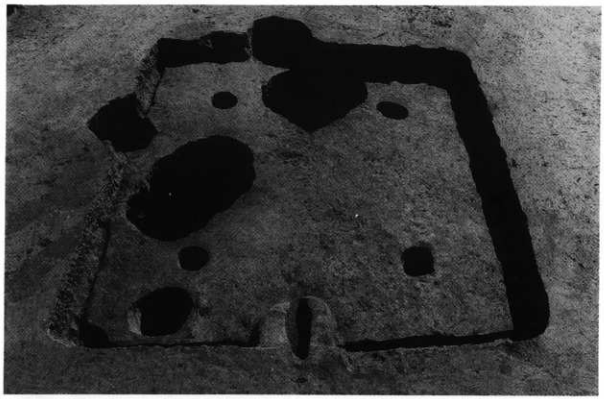
SI 514-7

SI 514-8

SI 514-10

SI 514-5

第514号住居跡出土遺物(2)



SI 526-1

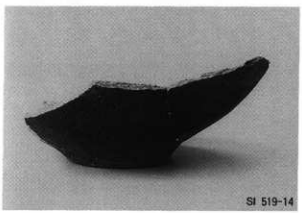
SI 526-5

SI 526-6

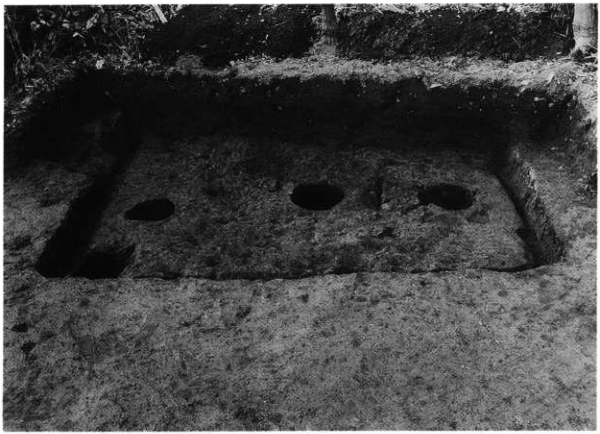
SI 526-2

第526号住居跡・竈・出土遺物

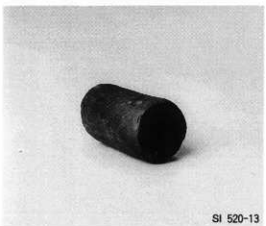
第519号住居跡・出土遺物(1)



第519号住居跡出土遺物(2)，第521号住居跡



SI 520-1



SI 520-13

SI 520-2

第520号住居跡・遺物出土状況・出土遺物(1)

SI 520-8

SI 520-4

SI 520-3

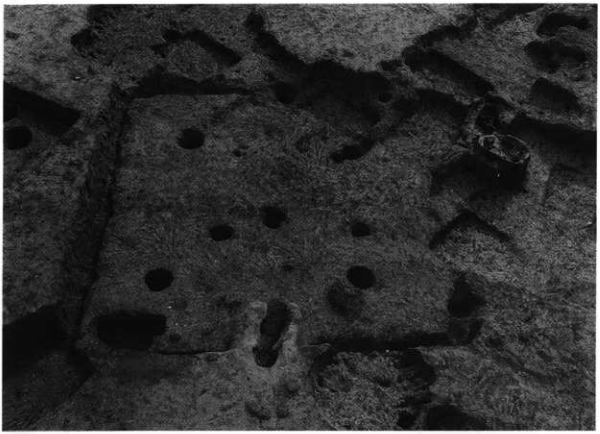
SI 520-7

SI 520-9

SI 520-11

SI 520-10

第520号住居跡出土遺物(2)



第525号住居跡・竈・遺物出土状況

SI 525-1

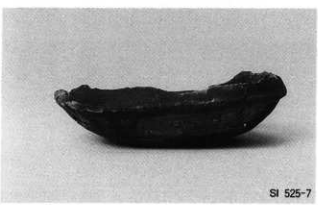
SI 525-2

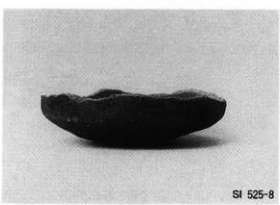
SI 525-3

SI 525-4

SI 525-5

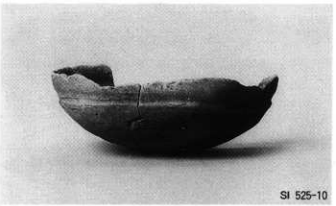
SI 525-6


SI 525-7


SI 525-8

第525号住居跡出土遺物(1)

SI 525-9

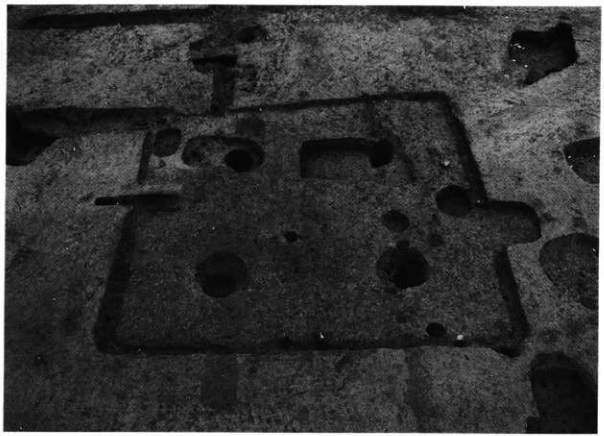

SI 525-10

SI 525-13

SI 525-12

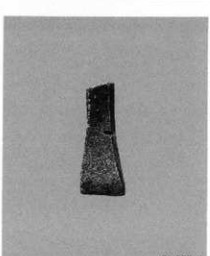
SI 525-15

第525号住居跡出土遺物(2)



SI 537-1

SI 537-2



SI 537-4

第537号住居跡・出土遺物

SI 527-1

SI 527-2

SI 527-3

第527号住居跡・竈・出土遺物(1)